平成 26 年度 事業報告の概要

公益財団法人仙台市市民文化事業団

平成 26 年度事業の概況

・公益財団法人へ移行後 3 年度目となった当年度は、事業の公益性を一層意識し、文化芸術の鑑賞機会や学習機会を経常的に幅広く提供するよう各事業を行った。

・東日本大震災から 3 年以上が経過するなか、あらためて文化芸術の役割の重要性をふまえ、芸術文化振興、歴史文化普及、生涯学習支援にかかる各種事業に、心の震災復興や人と人とのつながりを生み出し育む事業を組み入れて実施するとともに、震災の記憶を後世に残す文化芸術面での取り組みを続け、併せて文化面での雇用促進を継続した。

・2 年後の財団設立 30 周年を節目としてとらえ、「指定管理者制度」や「劇場法」などの重要なテーマを意識しながら既存の事業の点検・新規事業の開発・試行等の準備に取り組んだ。併せて事業手法を精査し効率的な展開を心がけるとともに、国や他地域からの支援及び事業費補助の受入れを進め、積極的な外部資金の確保、開拓に努めながら各事業を行った。

下記（1）～（4）の事業体系に基づき、当財団の公益的使命を認識しながら事業を遂行した。

平成 26 年度事業の概要（経費／単位千円）

（1）支援、協働、人材育成事業

芸術表現や事業制作、学習など市民自らが行う文化活動に対して、安全・快適で使いやすい文化施設の提供をはじめとし、広報活動の支援、生涯学習の支援、事業費の一部助成、助言や協働、表現者や制作者の育成事業などを行った。

併せて当事業実施の過程で、当事業団が自主事業を企画・実施する際に必要となる新たな地域文化情報の把握や人的ネットワークづくり、文化的コミュニティ醸成に努めた。

ア　施設の貸出・管理運営及び利用者への支援・協力

・仙台市青年文化センター 管理運営（335,448）/No.133
・仙台市泉文化創造センター 管理運営（121,821）※㈱東北共立、石井ビル管理㈱とのグループ /No.134
・仙台市歴史民俗資料館 管理運営（61,940）/No.82
・仙台市富沢遺跡保存館 管理運営（77,145）/No.94
・仙台市縄文の森広場 管理運営（40,274）/No.107
・仙台文学館 管理運営（171,703）/No.123
・せんだいメディアテーク 管理運営（553,860）/No.135
・せんだい演劇工房 10－BOX 管理運営（能-BOX 管理運営含む）（26,088）/No.61

イ　市民企画事業への広報支援・助成・協働

・支援・助成・協力事業（17,420）/No.37
・大衆紙芝居ネットワーク事業　/No.32
・せんだいメディアテーク施設活用推進・地域文化連携事業（2,397）/No.79

ウ　ボランティア、地域、教育機関等との協働

・イズミティ21での市民協働ロビーイベント（154）/No.10②
・仙台国際音楽コンクールボランティア運営（1,359）/No.57
・各ミュージアムボランティア運営 /No.100,112他
・各ミュージアム　教育/地域との連携事業　/No.68,79,92, 110,115, 117他

エ　人材育成

・10－BOX夏の学校（2,247）/No.25
・舞台スタッフ・ラボ（697）/No.27
・せんだい短編戯曲賞2014（1,799）/No.24
・仙台ジュニアオーケストラ運営（19,954）/No.60
・演劇-社会アクセス事業（320）/No.31

●施設利用者数の比較（26年度　←　25年度　←　24年度）

・仙台市青年文化センター利用者（336,193←326,286←319,109）
・仙台市泉文化創造センター利用者（286,051←292,849←294,373）
・仙台市歴史民俗資料館 入館者（36,435←34,069←32,855）
・仙台市富沢遺跡保存館入館者（35,376←32,021←32,468）
・仙台市縄文の森広場利用者（30,204←31,469←29,089）
・仙台文学館入館者（67,059←57,945←41,255）
・せんだいメディアテーク利用者（447,536←464,222←440,495）
・せんだい演劇工房10－BOX利用者（能-BOX利用者含む）（42,655←35,724←34,034）

歴史民俗資料館、せんだい演劇工房10－BOXは開館以来最高の入館者・利用者数を記録し、仙台文学館（平成11年3月開館）は統計を取り始めた平成13年度以降最高の入館者数となった。

（2）普及、啓発事業

文化芸術の鑑賞層を主な対象とし、芸術や文化全般の魅力を幅広く普及していくための事業を多面的に展開し、アーティストや制作者を支え育てる観客・スポンサーやサポーターの裾野拡大を図った。

当事業団ならではの特色ある公演や企画展、文化講座や体験ワークショップ、教育・福祉・まちづくりの現場に「芸術の力」を届けるアウトリーチ事業等に加え、文化情報誌の編集・発行や財団ホームページ運営などの広報事業、イベント鑑賞友の会の運営などを行い、前掲(1)の自主文化活動支援と併せ双方で事業を展開することにより、地域文化の総合的な底上げを図った。

ア　鑑賞公演

・仙台クラシックフェスティバル2014（75,436）/No.2
・杜の都の演劇祭2014（2,500）/No.26
・おろしまちBOX～10-BOXセレクション（3,856）/ No.28
・市制施行125周年記念コンサート（4,054)/No.62
・れきみん秋祭り（2,547）/No.11
・こまつ座公演　（5,534）/No.21
・ライブ文学館（2,656）/No.20
・宝塚歌劇仙台公演（40,259）/No.3
・演劇・ダンス公演（TAP the FUTURE in sendai、おふぃす3○○(さんじゅうまる)、兵庫県立ピッコロ劇団仙台公演）/No.7,29
・劇場・音楽堂等活性化事業（日立システムズホール仙台文化庁補助事業）（オーケストラスタンダード、オーケストラ鑑賞会）（60,394）/No.8

・日立システムズホール活性化事業（インド舞踊、クリスマスコンサート他）/No.9①③⑤
・新春いずみ寄席（3,008）/No.5
・古典芸能事業（仙台青葉能公演、文楽公演、市民能楽講座、能-BOX 経常事業等）（4,159）/No.7 34,35

イ　展示事業

・歴史民俗資料館 特別展「餅・モチ～ハレの食」（1,710）/No.84
・歴史民俗資料館 常設展・企画展（1,793）/No.83,85～88
・地底の森ミュージアム特別企画展「ザ・ハンター　狩猟の道具」（2,256）/No.96
・地底の森ミュージアム常設展・企画展（13,266）/No.95,97～99
・縄文の森広場常設展・企画展（15,462）/No.108,109
・仙台文学館 特別展「石川啄木の世界～うたの現郷をたずねて」（4,130）/No.125
・仙台文学館 特別展「いわむらかずお絵本原画展」（4,845）/No.127
・仙台文学館常設展・企画展（3,695）/No.124,126,128～130

ウ　講座･ワークショップ等

・各ミュージアムでの講座･ゼミナール･ワークショップ（5,712）/No.15,67,88,100①～⑤,111,113
・各ミュージアム等での利用学習（1,583）/No.100⑥,114
・能-BOX 経常事業（能の各種体験講座)、市民能楽講座のうち能-BOX での講座（3,659）/No.34,35
・舞台スタッフ・ラボ 2014（697）/No.27
・熊谷和徳主宰タップダンス講習　/No.7
・音声学ワークショップ　/No.30
・(再掲)演劇-社会アクセス事業　/No.31
・創造都市推進事業「ワークショップ　となりの子育て」（2,064）/No.41

エ　アウトリーチ

・アーティストマネジメント事業（1,019）/No.45
・（再掲）演劇－社会アクセス事業　/No.31
・仙台市震災復興のための芸術家派遣事業　/No.44
・仙台文学館学芸員出前講座　/No.69

オ　文化芸術情報の提供･広報

・広報事業（4,928）/No.50
・事業団友の会運営（3,041）/No.51

●宝塚歌劇 100 周年記念 宙組全国ツアー仙台公演（6 回公演）

【上演日程等】9/13（土）～9/15（月・祝）（於：イズミティ 21）
出演：朝夏まなと、実咲凛音他
入場者のべ 8,000 人

宝塚歌劇 100 周年を記念し、宝塚歌劇の代表作品でもある「ベルサイユのばら―フェルゼンとマリーアントワネット編―」を、仙台公演は他地域より多い 3 日間で 6 ステージを上演した。仙台市内や宮城県内からはもとより、関東・関西方面からのファンも訪れ、各公演とも盛況のうちに幕を閉じた。

また、100 周年記念特別企画として、宙組トップスターらの出演による「チャリティー・トークショー～宝塚歌劇団　宙組タカラジェンヌとともに」を公演中日に開催した。東日本大震災被災地支援事業と位置付けて開催したこのショーにおいても、舞台上のタカラジェンヌらの熱いトークが場内を沸かせた。

さらに、各公演前に隣接する小ホールロビーで、宝塚歌劇関連の楽曲やミュージカル曲を、地元音楽家によるエレクトーン演奏で楽しんでいただくプレコンサートを開催し、賑わいを添えた。

なお、トークショーの入場料収入を、仙台市社会福祉協議会を通じ、東日本大震災被災地及び 2014 年 8 月に発生した豪雨による広島市土砂災害被災地あて寄付した。

（3）交流、創造、発信事業

仙台圏と他地域の人材が交流し、共通の認識を持って協働していく中で、長期的継続も視野に入れながら作品や事業を作りあげ、広く社会に成果を発信した。

参加者・関係者・観客などの立場で事業に関わり触発された若い人材が、年月を経て指導者やプロデューサーとなり、次の若い人材を励まし育くんでいくような世代循環の流れも重視しながら、地域文化リーダーの育成やコンテンツの創造、都市間交流、都市ブランドの醸成など、さまざまな成果を期待し、プロデュース型事業を推進した。

ア　顕彰制度･コンクール等

・仙台国際音楽コンクール及び関連事業（34,928）/No.53～59
・（再掲）せんだい短編戯曲賞 /No.24
・ことばの祭典－短歌・俳句・川柳への集い（448）/No.66
・土井晩翠顕彰会の支援（晩翠わかば賞・晩翠あおば賞）/No.72

イ　プロデュース公演･企画公演･企画展

・オペラ「遠い帆」2014 年東京公演（78,390）/No.1
・仙台ジュニアオーケストラ定期演奏会 /No.60
・創造都市推進事業「RE：プロジェクト」（1,732）/No.43
・地域文化事業「亜炭香古学～足元の仙台を掘り起こす」（3,501）/No.38
・地域文化事業「モノと暮らす」（677）/No.39
・地下鉄東西線アートプロジェクト（2,687）/No.40
・対話の可能性（1）対話のための発信事業、（2）対話の場づくり協働事業（19,887）/No.74,75
・館長発信事業（せんだいメディアテーク）（914）/No.78
・（再掲）れきみん秋祭り /No.11
・（再掲）杜の都の演劇祭 /No.26

ウ　グッズ製作･出版

・ミュージアムグッズ開発･販売（914）/No.23
・せんだいメディアテーク　機関誌「ミルフイユ」第 7 号発刊/ No.74
・仙台文学館選書編集・販売/No.46

●オペラ「遠い帆」2014 年東京公演

【上演日程等】8/23（土）、8/24（日）（於：新国立劇場）
入場者のべ 1,800 人

慶長遣欧使節出帆 400 周年記念年となった 2013 年の仙台公演に引き続き、東京・新国立劇場を会場に仙台市委嘱により製作したオペラ「遠い帆」を新演出版・字幕付きで再演し、仙台公演以上の成果を目指した。また同作品の今後の普及のため、公演前のプレ・トークを含め、高画質での映像収録を行った（平成 27 年度に仙台市及び石巻市で上映予定）。

本公演は、東日本大震災以来希少となっている、被災地からの本格的な芸術作品の発信として、来場者・各新聞・音楽誌から高い評価を得た。

作曲：三善晃、脚本：高橋睦郎、総監督：宮田慶子、指揮：佐藤正浩、演出：岩田達宗
合唱指揮：今井邦男、合唱指導：石川浩、佐藤淳一、千葉敏行
出演：小森輝彦、小山陽二郎、金沢平、井上雅人、平野雅世、オペラ「遠い帆」合唱団、NHK 仙台少年少女合唱隊、仙台フィルハーモニー管弦楽団

（4）総合、その他

ミュージアム常設展などを支える資料収集と保存、文化芸術における各分野の調査や研究、財団全体の事業進行管理･調整･評価･内部研修など、事業全体の成果向上のため必要となる総合的な事業を行った。また、前年度に引き続き震災の記憶を風化させないための記録プロジェクトを継続した。

ア　調査･研究

・歴史民俗調査研究･報告（歴史民俗資料館）（616）/No.91
・考古学調査研究･報告（地底の森ミュージアム･縄文の森広場）（176）/No.102,119
・遺構の分析調査（地底の森ミュージアム）（403）/No.105

イ　資料収集･保存

・歴史民俗資料収集・保管（歴史民俗資料館）（2,200）/No.90
・文学資料収集・保管（仙台文学館）（2,293）/No.131
・東日本大震災をめぐる文学作品収集事業（18）/No.49
・ライブラリー運営等（メディアテーク）（8,121）/No.136
・地域文化デジタイズ（メディアテーク）（1,021）/No.76

ウ　内部評価・制作管理・職員研修他

・第３回国連防災会議関連事業（3,205）/ No.6,36
・管理運営施設利用者及び各種事業参加者を対象とした利用者アンケート（全施設・課）/No.52

●第３回国連防災会議関連事業

【「落語会＆トーク～子どもと芸術　心の復興」】
3月15日（日）AER産業・情報プラザ　　参加者98人

【「世界の防災展」ブース展示への参加】
3月14日（土）～18日（水）せんだいメディアテーク

【プレ企画展示　パネル展「3.11からの文化芸術活動の記録」】
3月4日（水）～8日（日）仙台ファーストタワーアトリウム　入場者　459人

【「ふりかえる・はなす・すすめるプロジェクト」】
A/創る：〈歩く、話す、体との対話〉　9月26日（火）～10月12日（日）　宮城野区中央市民センター他
B/創る：〈小さな演劇を作ろう〉　11月1日（土）仙台市榴岡児童館
C/体験する：〈まっくらカフェ　あおちゅう店〉　11月3日（月）青葉区中央市民センター
D/観る：〈Whiteプロジェクト『White―あの日、白い雪が舞った―』〉11月15日（土）仙台市市民活動サポートセンター
E/観る：〈「いまとこれからについて考える」リーディング＆トーク　〉11月20日（木）、21日（金）仙台市役所本庁舎1階、bookcafe火星の庭
F/体験する：〈からだから振り返る」〉11月21日（金）演劇工房10-BOX
G/はなす：〈シンポジウム「舞台芸術が担う防災活動とは」〉　11月22日（土）仙台市市民活動サポートセンター
A～G参加者311人

●利用者アンケートの実施

公共ホール施設及びミュージアム施設の運営管理や事業実施にあたり、さらに良いサービスの提供の指針として、1か月間にわたり「利用者アンケート」を実施した(実施期間：平成26年12月1日～28日)。

(1)市民利用施設のシステム、広報、施設使用感、職員対応についてのアンケート結果。

施設名(回答数)	とても満足	満足	ふつう	不満	とても不満
日立システムズホール仙台(246)	36.1%	40.6%	21.9%	1.4%	0.0%
イズミティ21(90)	30.4%	37.8%	29.6%	2.2%	0.0%
メディアテーク(91)	25.6%	49.3%	22.2%	3.0%	0.0%
演劇工房10-BOX(17)	47.1%	27.5%	25.5%	0.0%	0.0%

(2) 演奏会や展示などの広報、事業内容、会場、スタッフ対応についての鑑賞者を対象としたアンケート結果

事　業　名(回答数)	とても満足	満足	ふつう	不満	とても不満
オーケストラ・スタンダードVol.11(189)	30.7%	39.1%	28.5%	1.6%	0.0%
杜の都の演劇祭プログラムB(82)	19.7%	33.2%	44.1%	2.7%	0.3%
市民能楽講座　能公演「殺生石」(233)	19.4%	45.9%	32.6%	2.0%	0.2%
能のお稽古体験講座(8)	29.0%	35.5%	29.0%	6.5%	0.0%
メディアテーク「記録と想起」展(展示)(557)	26.5%	38.0%	31.0%	3.4%	1.0%
歴史民俗資料館　常設展・特別展「餅・モチ～ハレの食」(32)	28.9%	38.3%	29.7%	3.1%	0.0%
地底の森ミュージアム　常設展・企画展「科学で読み解け！環境絵巻」(84)	32.8%	43.6%	21.2%	2.0%	0.4%
縄文の森広場　常設展・企画展「縄文人と動物のかかわり」(21)	24.1%	43.4%	25.3%	2.4%	4.8%
縄文の森広場　体験(49)	42.0%	38.9%	18.7%	0.5%	0.0%
仙台文学館　常設展(75)	32.9%	39.7%	26.4%	1.0%	0.0%
仙台文学館　講座7種(868)	21.7%	49.4%	27.8%	1.2%	0.0%

公益財団法人仙台市市民文化事業団　平成26年度　事業報告書

1定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業（市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進）

番号	事　業　名	期　日	会　場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等・備考

（単位；千円）

（1）芸術文化振興事業

①ミュージアム等周年記念事業

ア 慶長遣欧使節出帆400周年記念事業

仙台市委嘱によるオペラ「遠い帆」（作曲；三善晃・脚本；高橋睦郎）を再演した。

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
1	**オペラ「遠い帆」2014年東京公演**	8/23・24	新国立劇場　中劇場	78,390	65,019	入場料　11,361 市負担金　47,000 （文化庁補助金　34,257含む） 助成金　2,800 協賛金等　3,808 寄付金　50
	支倉常長ら慶長遣欧使節を題材とし、1999年に仙台市委嘱により作曲・初演されたオペラ「遠い帆」を、使節出帆400周年記念年となった昨年の仙台公演に引き続き、東京・新国立劇場を会場に新演出版・字幕付きで再演した。国内外で活躍するソリスト・スタッフ、仙台フィル、これまで楽都・劇都として培ってきた児童合唱団、市民合唱団とその指導者、役者・ダンサー、照明や音響などの裏方、演出助手など、前年の仙台公演とほぼ同じ顔ぶれ300人以上が数か月ぶりに再結集し、仙台公演の成果のさらに上を目指した。本公演は、東日本大震災以来希少となっている、被災地からの本格的な芸術作品の発信として、来場者・各新聞・音楽誌から高い評価を得た。また、公演前のプレ・トークを含め、同作品の今後の普及のため、高画質による映像収録を行った。この映像上映会を、平成27年度に仙台市が開催する慶長遣欧使節出帆400年イタリア記念イベントや、石巻市で予定している。 作曲：三善晃　脚本：高橋睦郎　総監督：宮田慶子、指揮：佐藤正浩、演出：岩田達宗、出演：小森輝彦、小山陽二郎、金沢平、井上雅人、平野雅世、オペラ「遠い帆」合唱団、NHK仙台少年少女合唱隊、仙台フィルハーモニー管弦楽団　合唱指揮：今井邦男、合唱指導：石川浩、佐藤淳一、千葉敏行					入場者：のべ1,800人

②経常事業

イ　公演事業

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
2	**仙台クラシックフェスティバル2014**	10/3～5	日立システムズホール仙台他	75,436	73,430	入場料等　40,418 市負担金　23,000 協賛金　10,012
	多くの市民にクラシック音楽を楽しんでいただくとともに「楽都仙台」を内外へ発信することを目的に、第9回目となる「仙台クラシックフェスティバル」を開催した。仙台市等と共催。 東日本大震災後は、仙台が復興に向けて前に進むことをメインのコンセプトとしているが、今回は、新たなプレ企画として「出張せんくら」と称し、せんくら出演者が病院や復興公営住宅最寄りの市民センターなどでコンサートを実施した。 ホール公演は、45分～60分の公演時間、チケットは1,000円～2,000円という手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しむ当初からの基本コンセプトを継承。地下鉄沿線の日立システムズホール仙台、イズミティ21、エル・パーク仙台、太白区文化センターの4施設を会場として3日間で83の公演を設け、様々なジャンルのクラシックコンサートのはしご鑑賞を推奨した。また、地下鉄駅コンサート、平成23年度以降毎回好評を得ている「街なかコンサート」も設けることにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々に元気と希望、喜びを届けることのできるフェスティバルとした。					入場者： のべ33,200人
3	**宝塚歌劇宙組全国ツアー仙台公演**	9/13～15	イズミティ21	40,259	60,872	入場料 59,909 広告料 350 その他 613
	仙台市民はもとより広域からの要望が高い事業として、宝塚歌劇公演の東北拠点となる仙台公演を開催した。宝塚歌劇創立100周年を記念し、仙台公演は他地域より多い3日間・6ステージで「ベルサイユのばら」を上演。宙組トップによるアフタートークも実施した。 出演者：宙組　朝夏まなと　他					入場者：のべ8,000人
4	**もりのみやこのふれあいコンサート**	12/9	イズミティ21	2,600	2,600	市補助金 2,600
	障害のある方とそのご家族・同行者の方などにオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に開催した。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏会で、回を重ねるごとに来場者数が増えていること、また、車椅子での来場者が増えていることから、会場を前年度までの日立システムズホール仙台コンサートホールからイズミティ21大ホールに変更して実施した。事前申込制・無料。仙台市及び仙台フィルと共催。					入場者：901人
5	**新春いずみ寄席**	1/12	イズミティ21	3,008	2,578	入場料 2,578
	春風亭小朝師匠を迎えてイズミティ21小ホールにて独演会を実施。出演は他に春風亭ぺろちゃん。昼(13時～)・夜(16時～)2回公演。小朝の演目は昼が「大名の茶の湯」「代書屋」「男の花道」、夜が「試し酒」「代書屋」。ぺろちゃんは昼・夜ともに「桃太郎」。今年は夜公演の開演時刻を1時間早めることで高齢者等がより来場しやすいよう工夫し、来場者数を伸ばした。					入場者： 昼392人 夜306人

6	**第3回国連防災世界会議関連事業**	3月	AER産業・情報プラザ他	865	0	
	第3回国連防災世界会議パブリックフォーラム（仙台市主催）に下記の通り参加した。 **①「落語会＆トーク～子どもと芸術　心の復興」（3/15/AER産業・情報プラザ）：**前半は民話を題材とした東北弁による落語を、後半は小学校養護教諭、芸術団体、子どもの遊びを通した育成団体からゲストを招き、パネルディスカッションを開催した。 **②「世界の防災展」ブース展示への参加（3/14～18/せんだいメディアテーク）：**芸術文化による震災復興の当事業団の取り組みを英訳付でパネルで紹介した。併せて下記プレ企画の映像を上映した。 **【プレ企画展示（財団単独主催）］パネル展「3．11からの文化芸術活動の記録」（3/4～8/仙台ファーストタワーアトリウム）：**震災後の当財団の取り組みや仙台市内の文化による復興の足取りを写真パネルで紹介し、人びとに寄り添ってきた文化芸術のようすを伝えた。また、期間中の土・日に「仙台味噌仕込みワークショップ」を開催した。					参加者： ①98人 ②プレ企画　459人
7	**共催事業**	通年	日立システムズホール仙台他	2,788	20	その他　20
	放送局等が行う公益性の高い文化事業を共催した。継続実施している仙台青葉能、文楽公演（負担金各500,000円）と小山実稚恵「音の旅」（負担金無し、年2回）、TAP DANCE ART PROJECT in Sendai～Tap the FUTURE～の通年ワークショップ（助成のみ負担金なし）に加え、当年度は仙台オペラ協会「第39回公演『後宮からの逃走』（負担金1,600,000円）とNHK「“ふるさとの記憶”失われた街　模型復元プロジェクト」、菅野潤「演奏生活30周年記念ピアノリサイタル」、菅英三子「ハートフルコンサート」、おふぃす3○○「天使猫～宮沢賢治の生き方」、辻井伸行リサイタル（いずれも負担金なし）、他19件を共催。					

ウ　ホール運営活性化事業

それぞれの施設がより地域に開かれたホールとなるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施した。

8	**劇場・音楽堂等活性化事業 （日立システムズホール仙台文化庁補助事業）**	通年	日立システムズホール仙台	60,394	60,394	市負担金　45,400 文化庁補助　14,994
	クラシック専用ホールを擁し地域の音楽文化を支えてきた日立システムズホール仙台からの文化庁補助による発信事業。仙台市、（公財）仙台フィルハーモニー管弦楽団などと共催。主な事業は下記の通り。 **①青少年のためのオーケストラ鑑賞会(7/1・2・3、11/4・5・6・7)：**市内小中学校132校を音楽専用ホールに招き本格的な鑑賞会を実施した。年齢層ごとのテーマによるプログラムを11,000人を超える児童・生徒が鑑賞した。 **②仙台フィルが市民に贈る「オーケストラ・スタンダード」(5/9、6/20、12/3、2/4)：**オーケストラの名曲を手ごろな入場料で提供するシリーズコンサートとして、平成23年度より継続して4年目。当年度は4公演を開催した。各回とも開演前に指揮者によるプレ・トークを開催し好評を得た。継続4年を経て当事業が市民に浸透し、固定ファンの定着とともに新たなクラシック音楽愛好者のすそ野が広がり、回を重ねるごとにより多くの来場者を得てにぎわった。（5/9：540人、6/20：548人、12/3：592人、2/4：609人）					①132校、11,706人 ②2,289人
9	**日立システムズホール仙台活性化事業**	通年	日立システムズホール仙台	2,161	309	受講料 41 その他 268
	指定管理の事業計画に基づき、地域との連携や施設の魅力を高めるための各種事業を行った。 **①インド政府派遣カタカリ舞踊団仙台公演（5/25）**：震災復興支援の一環及び施設活性化を目的として、インドの四大古典舞踊の一つ「カタカリ舞踊団」による公演を行った。 **②ガス局共催料理教室（7/26・11/8・2/7）**：クッキングルームの最新器具であるガスコンロの使用説明を兼ねて利用促進を目的に実施した。 **③ブランコ・ツヴェトコビッチ民族舞踊団公演（11/27）**：震災復興支援の一環及び施設活性化を目的としてセビリアを代表する舞踊団による公演を行った。 **④「旭ヶ丘わんぱく森^{2}がっこ」ファーム収穫祭（11/29）**:近隣のファームで収穫した野菜を使った調理・試食会や野菜で作る楽器作りワークショップを行った。 **⑤リチャード・リンCD発売記念クリスマスコンサート（12/5）**：第5回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門優勝者のCD発売に合わせ、フリースペースであるパフォーマンス広場を会場に、リチャード・リン、地元中高校生らによるハンドベル班とソプラノ歌手らの出演による演奏会開催した。 **⑥ホール見学会(3/25)**：小学生を対象に、バックステージを体感することにより、施設に関心を持ってもらうとともに、舞台芸術への興味と参画意識を高めるホール見学会を実施した。 **⑦その他利用者サービス事業（通年）**：有料コピーサービス等。					参加者 ①520人 ②46人 ③475人 ④40人 ⑤210人 ⑥12人 ⑦は収益事業

10	**イズミティ21 活性化事業**	通年	イズミティ21	576	63	販売手数料 63
	指定管理者応募時の提案事項を中心に次の事業を行った。 **①泉中央地区プレイガイド事業(通年)**:利用者へのサービス向上と来場者への利便を図るため、イズミティ21を会場に実施する催物の入場券を販売した。 **②市民協働ロビーイベント(2/18、3/17)**:地域を拠点に活動する団体と協働で、ホールの保守点検日に使用せずに空いている大ホールロビーを活用して実施した。2/18に聖和学園短期大学(泉区)保育学科学生46名が出演してハンドベル合奏、げきあそび「うみにぽっかり　くじらじま!」、パネル動物クイズ～色と形なぁに?～など歌、劇、手遊びを交えた幼児向けのコンサートを楽しんだ。同校は昨年に続いて2回目の出演。企画運営に学生、職員、昨年出演のOGが参画。3/17に常盤木学園高校(青葉区)音楽科生徒42名が出演して声楽、合唱、ピアノ、ヴァイオリン、サクソフォン、マリンバなど多彩なジャンルの音楽を楽しんだ。企画運営に高校生が参画。同校は翌4/28に当小ホールにてコンサートを開催する予定があり、そのコンサートのプレイベントとしての性格も持たせ、PR、出演者の試演の場を提供する機会とした。 **③ホール見学会(8/5　13時～、16時～の2回公演)**:普段目にすることができない大ホールのバックステージの探検と、音響、照明、舞台機構等の機材の操作体験によるホール見学会を実施した。夏休みに開催し、楽しみながら舞台に興味を持たせる内容として小学4～6年生を対象にし、ステージ上で実施する模擬イベントも同年代で構成する子ども劇団が参加した。参加者は泉区内の小学生を中心に76名(子ども劇団等含む)。地域で活動する劇団メンバーがファシリテーター(案内役)として、また記録撮影に市民ボランティアが参加。指定管理者グループを構成する㈱東北共立舞台職員が企画段階から積極的に参画した。 **④ピアノ弾き込みボランティア(5/27・28、9/23・24、2/23・24)**:大ホールのスタインウェイ社製コンサートグランドピアノを常時良好な状態に保つため、一定の演奏技術を持つ市民ボランティアの協力によりピアノの弾き込みを実施した。 **⑤市民ギャラリー展示(2/19～2/24)**:⑦のマニプリ舞踊仙台公演を紹介する展示「マニプリ舞踊仙台公演パネル展」を行った。写真パネル31点を展示した。 **⑥宝塚歌劇仙台公演記念ロビーコンサート(9/13～9/15　3日間で6回公演)**:同日程で大ホールで開催した宝塚歌劇仙台公演に合わせて、隣接する小ホールロビーにて地元の音楽家が出演する1回30分間のエレクトーンコンサートを実施した。大ホール開演前のプレコンサートとして宝塚歌劇関連の楽曲やミュージカル曲を演奏した。 **⑦マニプリ舞踊仙台公演(10/17)**: 東日本大震災の復興支援の一環として、インド政府派遣によるマニプリ舞踊団の公演を往復はがき申込制による無料招待で大ホールを会場に実施した。ロビーではインドティーの提供、インド美術品の展示、インド関連ビデオの放映等を行った。インド政府文化省、インド大使館ほかとの共催。					①は収益事業 ②入場者 2/18: 242人 3/17: 155人 ③参加者:76人 ④登録ボランティア 9人 ⑤2階ロビーのオープンスペースのため人数集計無し ⑥入場者:1,305人 ⑦入場者:839人

エ　ミュージアム活性化事業

ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図った。

11	**れきみん秋祭り**	10/25、11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館他	2,547	1	刊行物販売　1
	10－BOXと歴史民俗資料館が共同で企画運営する「れきみん秋祭り」の9回目。野外での「お神楽」「田植踊」「鹿踊」「剣舞」などの伝統芸能と、仙台で守り継がれてきた伝統工芸の職人さんの手業の披露、併せてジャグリングや手品など、大人だけでなく各世代が同時に楽しめるイベントとなった。					参加者 10/25:4518人 11/3:220人
12	**猿舞座のさるまわし**	6/22	榴岡公園 歴史民俗資料館他	26	0	
	山口県岩国市に拠点を置き、全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の6回目の公演。榴岡公園の緑の下、人も猿もリラックスした雰囲気で伝統芸を楽しんだ。					参加者:589人
13	**朗読公演 「つつみのおひなっこ・仙台空襲物語」**	8/9	歴史民俗資料館他	25	0	
	朗読「リラの会」による「つつみのおひなっこ・仙台空襲物語」を、終戦記念日に近いタイミングで歴史民俗資料館常設展示「農家の台所コーナー」において上演し、仙台空襲をより身近に観覧者に伝えた。					参加者:28人
14	**館長ゲスト対談シリーズ**	通年	メディアテーク	1,391	0	
	自主事業「対話の可能性」に関連したトークをせんだいメディアテークで3回開催した。同館長がゲストの人選に関わり、現在注目される有識者(哲学者、ノンフィクションライター、ファッションデザイナー)を迎え、観客を交えて議論を深めるとともに、トークの内容は映像に記録し、映像音響ライブラリーで広く公開した。					参加者 ①243人 ②252人 ③208人
15	**活版印刷ワークショップ事業**	通年	メディアテーク	298	0	
	メディアテークに寄贈された活版印刷機を使い、レトロな「活版印刷」の技術を伝えるワークショップと展示を同会場で行った。デジタル製版主流の現在の印刷においてオールドメディアとしての活版印刷の「技と術」を継承し次代に伝え、同時に貴重な活版の道具類を公開した。					展示観覧者:2,695人 ワークショップ参加者:25人

16	**体験教室「親子でつくろう古代米」**	5～11月	地底の森ミュージアム・歴史民俗資料館	679	151	古代米販売 123 参加料 28
	地底の森ミュージアムに隣接する水田で古代米の栽培を行った。親子での協働作業を通じて、古代の歴史を体感するとともに、地域の歴史的な絆や親子の絆の深さを伝える機会となった。今年度は、田植えから収穫まで計5回の活動日とし、同会場が地域活性化の拠点となるよう地域と連携し、歴史民俗資料館とも連携しながら事業を行った。収穫した古代米は、館のイベントや近隣の小学校などで古代米の試食や餅つきを行い、来館者や小学校の児童に提供した。					参加者:20組 のべ234人
17	**ミュージアムフォトコンテスト 「氷河期の森・縄文の森の風景2014」**	5～3月	地底の森ミュージアム・縄文の森広場	490	0	
	周辺住民に憩いの場として貴重な緑地を提供し親しまれている「氷河期の森」と「縄文の森」の魅力をより多くの市民に知っていただくことを目的に、「氷河期の森」「縄文の森」で撮影した写真を一般部門とキッズ部門で募集・審査し、館長賞等の授与を行った。応募作品は冬の企画展で展示をし、関連イベントとして「日中シンクロ撮影ワークショップ」「縄文コスプレ撮影会」を行った。事業課との連携事業「歴史とアートのコラボレーション」の一環事業。応募期間:5月～12月、展示:1/20～3/15、表彰式:3/8					写真応募者:58人 ワークショップ参加者:5人 コスプレ参加者:29人
18	**冬キラ☆今日の主役は氷河期の森**	12/13・14	地底の森ミュージアム他	308	0	
	地域の方々が気軽に参加しやすいかたちで、「氷河期の森」の価値や保全への共感を得ることを目的として、学生参画によるワークショップと「氷河期の森」の光三原色のライトアップを開館時間を延長して実施し、地域イベントとしての定着とを図った。東北芸術工科大学と連携実施、事業課との連携事業「歴史とアートのコラボレーション」の一環。					参加者 のべ134人
19	**縄文のまつり調査研究事業**	通年	縄文の森広場	100	0	
	縄文人の暮らしの中で行われていたであろう「まつり」の復元を目指して調査研究活動を行い、その成果を市民に公開し全国に発信する縄文の森広場の独自事業の一つ。平成26年度は引き続き縄文の音楽に関わる調査を行った。これまで復元製作してきた楽器関連資料を演奏するイベントを行い、本プロジェクトの成果公開と、今後音楽以外の要素も考えていく機会とした。					
20	**ライブ文学館**	7/13・9/12	宮城野区文化センター/日立システムズホール仙台	2,656	1,712	入場料等 1,712
	ホール、ギャラリーなどを会場に、朗読、音楽、映像、演劇などを交えて、文学作品をひとつのステージとして構成したイベント。市民と文学との出会いの場を広げ、「文学が息づく都市」仙台の新たなブランドを醸成することを目指し、当年度は次の2公演を行った。 **①「啄木と音楽の出会い～新井満さんを迎えて」**:仙台文学館の15周年記念展「「石川啄木の世界～うたの原郷をたずねて」と連動し、第一部で啄木の短歌に曲をつけた作家・新井満氏の歌と講演、第二部で新井満氏と啄木ソムリエの山本玲子氏のトークでステージを構成した。 **②「死者の魂と語らう～京極夏彦を迎えて」**:作家京極夏彦氏による朗読と現代舞踏家森繁哉による舞踏のコラボレーションを第一部、京極氏と評論家の東雅夫氏らによるトークを第二部として構成。日本文学史における怪談の系譜や、死者とのコミュニケーションとしての文学の意義について語ってもらい、現在活躍する作家の声をじかに楽しむステージとした。					入場者: ①189人 ②432人
21	**こまつ座公演**	10/18	日立システムズホール仙台	5,534	2,221	入場料等 2,221
	「劇都」仙台の文化振興策として、ハイレベルな演劇鑑賞機会を市民に安定して継続的に提供する事業。当年度は仙台文学館初代館長である井上ひさしの代表作「きらめく星座」のこまつ座による上演を行った。戦争前夜の庶民の暮らしを描いた作品は多くの市民から好評を得るとともに、「過去との対話」という戯曲のテーマの重要性が観客に認識された公演となった。					入場者:370人
22	**仙台文学館まつり**	8/17	仙台文学館	81	35	その他 35
	平成21年度に開催して大変好評を得た「吉里吉里国まつり」を「文学館まつり」として継続して開催。文学館に一層親しんでもらうため、夏休みの「こども文学館」の時期に合わせ、子どもを視野に入れたステージやスタンプラリーを実施。その他、KHB東日本放送の協力を得た「ぐりりのお話会」や八木山動物公園と連携による「移動動物園」を実施した。					参加者:2,721人

23	**ミュージアムグッズ開発・販売事業**	通年	各ミュージアム他	914	1,400	刊行物販売 1,182 その他 218
	ミュージアム来館者への付加価値として、また館PRの手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特性や資源を生かしたオリジナルグッズの開発・製作・販売を行った。 **①富沢遺跡保存館グッズ**：氷河期の森で採取した素材を活用したグッズ（氷河期の森の仲間たち・氷河期の森標本シリーズ等)販売。また試作段階を経て編布グッズ（コースター・しおり・ミサンガ・ストラップ）の販売を行った。（支出：58、収入：52） **②縄文の森広場グッズ**：縄文の森広場ボランティアスタッフによる手作りの勾玉など、商品の製作と開発を行った。（支出：27、収入：98） **③仙台文学館グッズ**：前年度までに制作し来館の記念などとして人気の高いしおり、井上ひさしのクリアフィルなどを継続販売した他、文学館の森をイメージしたグッズ「フォレストシリーズ」として、市内の手芸作家もえぎはるな氏による文学館の敷地の植物をデザインしたビーズのブックマークを販売。また、六郷在住の押し花作家・大友泰子氏による、「六郷からの花便り　押し花絵はがき」を販売した。（支出：19、収入：390） **④メディアテークグッズ**：平成20年度に制作した木村浩一郎氏とのコラボレーション・グッズ、平成22年度制作の開館10周年記念グッズ、さらに25年度制作のカネイリとの共同によるオリジナルグッズの開発に続き、昨年度より新たなオリジナル・グッズのシリーズを企画したが、今回はそのシリーズの第二弾としてメディアテークのオリジナルグッズを製作した。（支出：529、収入：593） **⑤歴史民俗資料館グッズ**：大正15年、昭和4年、昭和8年、昭和27年の仙台地図（復刻版）の継続販売。また、販売促進用に昭和27年地図を大きく引き延ばした床面マップを製作した。（支出：281、収入：267）					収益事業

オ　劇都仙台2014事業

都市文化を支える芸術として演劇の総合性と公益性に着目し、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑥の体系に基づき実施した。

①クリエイターの育成　②活動を始める市民への窓口やネットワークの支援　③教育や福祉など他ジャンルとの連携　④良質な公演の機会の拡大　⑤情報交流や協働　⑥関連調査や研究など

24	**劇都仙台登竜門事業 （せんだい短編戯曲賞）**	通年	演劇工房10-BOX他	1,799	1,799	市補助金 1,799
	演劇の根底となる戯曲をつくる若手劇作家の活動にスポットをあてる「第2回せんだい短編戯曲賞」事業を行った。 前年度に募集した作品から、選考委員（制作者）5名が大賞（2作品）を選考。最終候補作（12作品）を冊子化し、併せて次年度（第3回）の募集を行った。 ◆第2回せんだい短編戯曲賞【応募数：215作品（30都道府県）】 ・募集期間：3/1～3/15【当日消印有効】 ・最終選考会：10/17 ・大賞作品　『街に浮遊する信号器』 作：川津羊太郎（熊本）賞金25万円 『ナイト・ウィズ・キャバレット』 作：西史夏（兵庫）賞金25万円					【第2回】 応募：215作品 最終候補：12作品 大賞：2作品
25	**10－BOX夏の学校**	7～8月	演劇工房10-BOX メディアテーク	2,247	2,247	市補助金 1,149 助成金 1,000 受講料 98
	夏期の一定期間学校のスタイルをとり、演劇の手法を用いて、視野を広げながら創造・思考・表現を磨く集中講座を開催した。今回の創作実験アトリエに参加した作家が「踊りに行くぜ!!Ⅱ仙台公演」で地元枠作品を創作するなど、地域の人財発掘、育成において広がりをみせている。 協働：からだとメディア研究室 講師・アートディレクター：ヤコ・キムラ（舞台芸術家／アメリカサンディエゴ在住） **①好奇心と創造のレッスン**：広く一般を対象に、参加者が自分自身の中に潜む創造力と思考力を発見できることを狙いとした、造形、身体表現のワークショップと座談会を行った。 ワークショップ：7/25～8/23（全19日間）、公開授業：8/23　会場：演劇工房10-BOX **②創作実験アトリエ**：既に活躍するクリエイターを対象に、一般公開を前提としたONアトリエと非公開を前提としたOFFアトリエを開催した。 (1)ONアトリエ：7/9・16・23・31、8/12・20・21　完成発表：8/20・21　会場：メディアテーク (2)OFFアトリエ：7/9・15・22、8/3・10・17　　会場：演劇工房10-BOX					参加者： ①受講者11人 公開授業入場者29人 ②(1)作家4人 完成発表入場者245人　(2)作家3人、出演者1人
26	**杜の都の演劇祭**	11～1月	市内各所（飲食店など）	2,500	1,500	市補助金 1,500
	杜の都の演劇祭2014－ふたり－ 街なかの飲食店などを会場に、戯曲や小説などの名作を、朗読に演出を加えたスタイルの舞台作品とし、飲食物と共に安価で提供。3演目で全20ステージを「杜の都の演劇祭プロジェクト」との共催にて実施した。また、2008年から2013年までの演劇祭6年間を振り返る写真パネル展「うさこカフェ」を開催。 プログラム)『作品名』(プログラムディレクター)　会場(席数)　期間・公演数・入場者数 A)『永遠のジャック＆ベティ』『田村はまだか』(戸石みつる)　昔からのかに屋 かに八(32席)　11/24～11/27・4回・112人 B)『茶色の朝』(中村大地)　自家焙煎 珈琲まめ坊(14席)　12/11～12/20・8回・94人 C)『山椒魚』(横山真) カレーと野菜 香希　(18席)　1/6～1/17・8回・131人 「うさこカフェ」12/10～12/ 15　　演劇工房10－BOX　box-2　86人					プログラム入場者： のべ337人 展示入場者： 86人

27	**舞台スタッフ・ラボ2014 ～演劇創作をまるごと体感しよう～**	2月	宮城野区文化センター 演劇工房10-BOX	697	697	受講料 101 市補助金 596
	舞台技術を地域の活動に生かせる人財を養成、育成することを目的に、初心者も参加できる内容で実践的な講座を行った。基礎コースに新たに「小道具部門」を新設。美術部門の衣裳・小道具・舞台美術部門を10-BOXで行うなど「創るアトリエ」(演劇工房10-BOX)から「上演する劇場」(宮城野区文化センター・パトナシアター)への流れを実現した。 コーディネーター:澤野正樹(若伊達プロジェクト) **①基礎コース**:衣裳・小道具・舞台美術・照明・音響・舞台監督の5部門の講義と体験(2/6～2/18　全8日間) **②発展・創作コース**:C.T.T.sendai主催公演『もっと見ろ。事も無げに。』のプランから本番のオペレートまでを体験(2/14～2/28)					参加者:57人 ①44人 ②13人 来場者:150人(公演2回)
28	**おろしまちBOX ～10-BOXセレクション～**	通年	演劇工房10-BOX他	3,856	3,856	市負担金 3,856 (文化庁補助金含む)
	【10-BOXセレクション】 市内外の劇団や制作者と連携し、「せんだい短編戯曲賞」の大賞作品である優れた戯曲を地元仙台の演劇人が演出・出演し、リーディング公演を行った。また、県外からの良質な実演芸術の公演を3作品紹介し、舞台芸術作品の鑑賞機会を提供した。 **①iaku『人の気も知らないで』(第1回せんだい短編戯曲賞大賞作品)仙台公演　作・演出:横山拓也** ・6/27・28　全2回公演　仙台市宮城野区文化センター　パトナシアターホワイエ　(57人) **②Cui？『止まらない子供たちが轢かれてゆく』(第1回せんだい短編戯曲賞大賞作品)仙台公演 作・演出:綾門優季** ・9/12・13・14・15・16　全5回公演　演劇工房10-BOX　box－1　(105人) **③第2回せんだい短編戯曲賞大賞作品リーディング公演** 『街に浮遊する信号器』作/川津羊太郎(熊本県)　演出/白鳥英一(鳥屋) 『ナイト・ウィズ・キャバレット』作/西史夏(兵庫県)　演出/宍戸雅紀(東北学院大学演劇部) ・1/11　演劇工房10-BOX　box－1　(43人) 上演プロデューサー　森忠治(トライポッド) **④オイスターズ『日本語私辞典』(若手演出家コンクール2011最優秀賞受賞作)仙台公演 作・演出:平塚直隆(2008年・第4回仙台劇のまち戯曲賞大賞受賞者)** ・3/27・28・29　全4回公演　演劇工房10-BOX　box－1　(96人) **【劇都仙台フォーラム】** 演劇工房10-BOXを拠点に市民と舞台芸術の関わりを深めることを目的とし、「劇都仙台」の事業に沿った内容のフォーラムを4回実施した。併せて、各回の内容を編集し、ホームページ等で公開。 **①「10-BOX夏の学校プレゼンツ『Tango　Karamarito』－様々な視点とクリエイティブアクション」** ・7/6　10:00～12:00　演劇工房10-BOX　box－5　(16人) **②「せんだい短編戯曲賞－受賞者が語るせんだい短編戯曲賞」** ・1/11　17:00～18:00　演劇工房10－BOX　box－1　(43人) **③「映画上映『つぶより花舞台』+トーク「シニアと演劇力」** ・3/7　14:00～16:00　能－BOX　(34人) **④「舞台スタッフ・ラボの可能性」** ・3/21　13:30～15:30　能-BOX　(29人)					入場者:のべ423人
29	**兵庫県立ピッコロ劇団 『飛んで孫悟空』仙台公演**	8/17・18	日立システムズホール仙台	193	0	
	良質の演劇を市民に届けることを目的に、全国で唯一の県立劇団である兵庫県立ピッコロ劇団のファミリー向け作品『飛んで孫悟空』(作:別役実)を入場無料にて上演した。本公演は阪神・淡路大震災20周年事業であるとともに、東北地方の俳優を起用するなど「ひょうご・東北交流公演」として兵庫県の経費負担で行われた。仙台からは3名の俳優が現地の尼崎に滞在して作品に参加し、今後の発展に繋がる交流をもった。公演と併せて振付家や俳優によるワークショップも実施した。 公演:8/17　11:00、14:00 全2回公演 ワークショップ:8/18					入場者:931人 WS参加者:12人
30	**音声学ワークショップ**	通年	演劇工房10-BOX 日立システムズホール仙台	0	0	
	俳優の声と身体を見つめ直し、良い声を作るための呼吸法・発声法・発語法の専門的なカリキュラムの磯貝メソッドに基づいた音声学の講座を「IMS磯貝メソッド仙台塾」と共催で実施した。併せて講座の成果を披露する発表公演を行った。 受講者:13人、発表会3/23　来場者:28人					対象者:41人
31	**演劇－社会アクセス事業**	通年	演劇工房10-BOX他	320	120	県負担金 120
	教育や福祉現場での課題を、演劇へのアクセスが少ない潜在的なニーズととらえ、演劇のコミュニケーション能力を育む機能を応用して事業協働を行った。現場に必要な指導者(ファシリテーター)の育成やプログラムの研究開発を行いながら課題を解決するための事業を実施。さらに教育現場での演劇の次代の担い手である高校演劇部に重点支援するため、高等学校演劇協議会の地区大会等に共催した。 ①学校:仙台市立東宮城野小学校、仙台市立荒浜小学校、塩竈市立浦戸第二小学校・中学校 ②施設:仙台市青葉区中央市民センター、宮城県障害者福祉センター ③事業:コミュニケーション教育のためのワークショップ(仙台シアターラボ)、扇座公演(高砂もりあげ隊)、アルクト、こどもとあゆむネットワーク、仙台市消防局「朗読のつどい～あの日、あの時、私の記憶」					

32	**大衆紙芝居ネットワーク事業**	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
	当事業団が平成16年に企画・実施した「大衆紙芝居ワークショップ」への参加を期に始まった「大衆紙芝居ネットワーク」の自主活動（オリジナル作品の製作、上演、作品展など）に共催し、ロッカーの提供、作品の保管・貸出、機材提供などの協力を行った。					対象者：10人
33	**共通経費（事業間連携活動等）**	通年	演劇工房10-BOX他	1,680	796	刊行物販売 129 市補助金 667
	ホームページの更新をはじめとする劇都仙台事業全体の広報等共通業務、また教育や福祉など他の専門組織との協働事業やせんだい短編戯曲賞2014の冊子印刷・販売。					
34	**能-BOX　経常事業**	通年	能－BOX	602	602	受講料　67 市補助金　535
	能-BOXを活用し、能楽、他の古典芸能、民俗芸能など、和の文化に親しみ理解を深めるため、「こどものための能講座」（能楽師：山中迓晶）、「能のおけいこ体験講座」（仙台市能楽振興協会主催）などを行った。また、伝統舞台での表現の可能性を探る現代的なジャンルの催しも含め、利用者の開拓につながる公演等を共催等にて行った。 ①「こどものための能講座」（講師：山中迓晶/観世流能楽師） ・7/26～8/10（全7回）　参加者：24人（4歳～11歳）　8/10発表会来場者：65人 ②「能のおけいこ体験講座」（主催：仙台市能楽振興協会） ・金剛流、金春流、喜多流、観世流、宝生流が実施　　参加者：計65人 ③能楽師による和の発声道場（講師：山中迓晶） ・7/25、8/1、8（全3回）　参加者：12人 ④春の卸町ふれあい市・能-BOXふれあい能（協力：協同組合仙台卸商センター） ・4/19　（出演：山中景晶、山中つばめ　他）　　入場者：86人 ⑤秋の卸町ふれあい市・仙台少年少女能楽団-謡と仕舞の発表会（協力：協同組合仙台卸商センター） ・10/18～19　（出演：こどものための能講座修了者　18日15人、19日14人）　　入場者：110人 ⑥和太鼓Atoa.×津村禮次郎『鬼となれ蜘蛛となれ』 ・9/20～21　入場者：119人					参加者：101人 入場者：380人
35	**市民能楽講座**	11/16、12/7	能-BOX 日立システムズホール仙台	3,057	3,057	入場料 1,076 市負担金 1,981
	「能楽」をわかりやすく、気軽に楽しみながら学べる事業として、仙台能楽振興協会との協働により「第33回市民能楽講座」を開催。能楽公演を日立システムズホール仙台シアターホールで、講座を能-BOXで行った。 ①講座「能の魅力と殺生石の見どころ」（11/16　講師：高橋亘/シテ方宝生流） ②公演「宝生流 能 殺生石」（12/7　出演：宝生和英/宝生流20代宗家 他）					受講者：94人 入場者：478人
36	**国連防災世界会議in仙台　関連事業 「ふりかえる・はなす・すすめるプロジェクト」**	9/26～11/22	宮城野区中央市民センター、仙台市榴岡児童館、bookcafe火星の庭　他	2,340	2,340	市負担金 2,340
	2015年3月の国連防災世界会議へ向けて、さまざまな視点から、多くの人と防災について、これからの未来について考える場から、現状を前へ「すすめる」ための具体的なアクションを見つけ出し、市民とアーティストが一体となった力強い取り組みが数多く生まれることを期待して開催した。舞台芸術にできる復興とは、防災とは何なのかを、創る・観る・体験する6つのプログラムでふりかえった。 **A/創る：歩く、話す、体との対話**　（9/26～10/12　宮城野区市民センター等　10人） **B/創る：小さな演劇を作ろう**（11/1 仙台市榴岡児童館 10人*小学生8人含む） **C/体験する：まっくらカフェ　あおちゅう店**（11/3　青葉区中央市民センター　23人） **D/観る：Whiteプロジェクト『White－あの日、白い雪が舞ったー』**（11/15 仙台市市民活動サポートセンター 134人） **E/観る：「いまとこれからについて考える」リーディング＆トーク** （11/20・21 仙台市役所本庁舎1階、bookcafe火星の庭　70人） **F/体験する：からだから振り返る**　（11/21 演劇工房10-BOX　12人） **G/はなす：シンポジウム「舞台芸術が担う防災活動とは」**（11/22 仙台市市民活動サポートセンター　52人）					参加者：311人

カ　市民文化事業への支援事業

37	**支援・助成・協力事業**	2回募集	―――	17,420	17,420	市補助金 17,420
	市内で活動する団体・個人が行う芸術文化事業に対し、公募により以下の各種協力を行った。 「支援事業」は、年4回発行の文化情報誌『季刊まちりょく』に市民企画事業の告知を掲載する広報サポート。 「助成事業」は6月と12月に募集し、募集ごとの助成審査会により資金援助を決定。 「協力事業」では、特に公益性の高い事業について、資料貸出、人材の紹介や派遣、事務局への参画、文化施設での各種協力などを行った。 また、良質な文化事業に対し、公募によらず協力を行った。事業団友の会会員への割引チケット斡旋、国際音楽コンクール事務局としての各種協力、演劇工房10－BOXでの各種協力など。					支援：165件 助成：168件 協力：15件

キ　地域文化事業

市民が仙台・宮城の地域に愛着を深め、この地の文化にますます誇りを持てるよう、生活文化を中心に情報を発信していく事業として実施した。

38	**亜炭香古学～足元の仙台を掘りおこす**	通年	市内各所	3,501	0	
	美術家伊達伸明が仙台の地域資源「亜炭」、「埋木」をテーマに街の魅力を掘りおこす企画。3年目の今回は、4年目に開催される展覧会準備のほか、下記事業を行った。 **(1)足元スイッチ**：今と昔をつなぐ足元の「カケラ」をじっくり読み解き、その時間の蓄積や人々の暮らしに思いを馳せていつもとは違う街の風景を見出す内容。 **①青葉山のスイッチ**：もと亜炭鉱山であった東北大学植物園に残る痕跡を辿り、かつての生活風景に思いをはせた。 **②ホタルのスイッチ**：広瀬川にホタルがいたかつての夕方の風景についてアンケート調査を行った（H27継続実施）。 **③埋木のスイッチ**：「杜の都のクラフトフェア」と連携して埋木の原木のかけらを磨く体験ワークショップ実施したほか、青葉区民祭りや、新浜集会所で出張ワークショップを行った。 **(2)おちぼひろい～風景採集と創造**：美術家伊達伸明のこれまでの活動を紹介しながら、見慣れたものを新しい視点を持ってみることで気付く風景を楽しんだ。 **①トタン考古学**：青葉神社通り周辺を歩いて、建材に使用されているトタンの表情が持つ工芸的な美を鑑賞した。 **②立版古で伝える風景**：紙を切り抜いて立て起こすペーパークラフト「立版古（たてばんこ）」の魅力を映像とトークにより紹介した。また 「仙台・杜の都のクラフトフェア2014」（紙の特集）の企画展に立版古数点を出品した。 **③建物がウクレレになる話**：取り壊される建物の部材でウクレレを制作する活動を、トークと演奏、展示により伝えた。 **④亜炭香報**：この企画のテーマに沿った内容の新聞を発行した。 **(3)展覧会をつくる～アトリエ公開制作**：次年度の展覧会に出品する作品の制作を、ボランティアらとともに日立システムズホール仙台のアトリエ内で行った。期間中は毎週土曜日に座談会を行い、訪れた方の美術相談も受け付けた。市民のみでなく、全国から美術関係者も訪れた。 **(4)調査活動**：展示制作のための調査活動を地域の有志と共に行った（東北大学植物園、愛宕下水力発電所導水トンネル）。東北大学植物園では3月に研究発表会を行った。 ＜波及効果として＞　市民講師により、①原町小学校で亜炭香古学授業が行われた。 ②柏木市民センターで「埋木みがき」ワークショップが行われた。					参加者：1,344人 内訳 (1)453人 (2)547人 (3)286人 (4)58人 来場者：17,046人
39	**モノと暮らす**	通年	市内各所	677	10	参加料　10
	「ものづくり」というキーワードのもとにジャンルを越えたプロダクトや取り組みの紹介を行うことで、それぞれの分野における仙台の役割を認識し、市民とともに「ものづくりを育ててきた街」としての仙台の姿を共有することを目的として、当年度においては下記の取り組みを行った。継続3年目。 **①企画展『続く物語－仙台・工藝指導所の足跡－』(5/2～6/8/ライフスタイルコンシェルジュ)** 工藝指導所において作られた工芸品の展示や開発され現在に至る製品の展示、また関係者のトークイベントを開催することで、工藝指導所がものづくりや地域文化に果たした役割を現在に結び付けながら市民に紹介する機会を提供した。 **②街歩きツアー（7月、10月）** ブルーノ・タウトと仙台・杜の都のクラフトフェアをテーマにした街歩きを開催し（7月・10月）、ものづくりと結びついた仙台について、現場を見ながらセミナーを行った。 **③「仙台・杜の都のクラフトフェア」ボランティアのコーディネート** 毎年10月に開催される「仙台・杜の都のクラフトフェア」で配布する小冊子の制作や広報活動に従事する市民ボランティアを募集し、活動のサポートや連絡調整を行うことで、市民がイベントを支える側になる機会を創出した。					①トークイベント参加者：91人 ②41人（2回合計） ③ボランティア数：13人

ク　創造都市推進事業

仙台市と共催し、市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進する事業を実施した。

40	**地下鉄東西線沿線アートプロジェクト**	7～2月	地下鉄東西線沿線	2,687	2,687	受講料 198 市負担金　2,489 （文化庁補助金含む）
	①せんだいフォトコンテスト2014～地下鉄東西線＊沿線風景～：仙台の地域の魅力を再発見し、写真表現を多くの人に楽しんでいただくことを目的にしたフォトコンテスト。2年目の当年度は、地下鉄東西線沿線の地域資源をテーマに写真を公募し、2/20～25に展覧会を、2/22に公開審査と授賞式をせんだいメディアテーク6階ギャラリーで行った **②たまちゃんのにっこり寿司ワークショップ「地下鉄にのりまき！」**：東西線駅周辺の名物名所の図柄を持ったオリジナル巻き寿司3種類を、アーティスト清田貴代氏（たまちゃん）が考案し、公募による参加者と作品を制作した。8/24、11/9、12/7の3回、それぞれ七夕かざり、こけし、アンモナイトの図柄で制作。					①応募者：59人 展覧会入場者：1,250人 公開審査観覧者：80人 ②参加者：69人

41	ワークショップ「となりの子育て」	6～10月	のびすく泉中央　他	2,064	2,064	受講料等 14 市負担金 1,050 助成金 1,000
	演出家の阿部初美氏を進行役とし、演劇の手法を用いて結婚・出産・子育てについて考えるワークショップを実施した。俳優やダンサーなど表現活動を行っている人が連続して参加するコースを全9回、テーマに関心のある人が気軽に参加できる一回完結型の単発コースを全10回行い、参加者が多様な世代の人々と対話を重ねながらそれぞれが持つ悩みや思いを共有し、表現した。成果発表会はメディアテークにて開催し、事前アンケートから集めた言葉や文章の壁面展示、ダンサーによる即興パフォーマンスなどを実施した。					参加者：連続コース7人、単発コース：のべ87人、成果発表入場者：838人
42	地下鉄駅コンサート	9/27・28 10/4・5	地下鉄駅構内	881	881	市負担金　881
	仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを、地下鉄駅構内で開催した。					出演者：30団体194人 来場者：4,430人
43	RE：プロジェクト	通年	市内各所	1,732	1,732	受講料 32 市負担金　1,700
	東日本大震災で大きな被害を受けた仙台市沿岸部を中心に、そこに暮らしてきた方々から地域に根付いてきた暮らしの話を聞き、地域の記憶をつなぐ取り組みとして、以下の活動を行った。 **①『RE：プロジェクト通信』の発行** 地区ごとに取材を行い、その地域固有の暮らしや文化を住民の言葉からあぶり出し、市民にフリーペーパーにして届けた。取材・執筆にあたっては西大立目祥子氏（ライター）と武田こうじ氏（詩人）に引き続き業務を依頼して進めた。各号7000部発行。 ・第10号（若林区種次地区）／第11号（宮城野区南蒲生地区）／第12号（宮城野区和田地区） **②「オモイデゴハン」の開催** 地域で採れた野菜を使い、その地域で昔から食べられてきた食事を住民が振る舞うプログラム。食事の背景にある地域文化の姿を東北学院大学の学生とともに聞き取りを行うことで可視化し、さまざまな角度から「その土地ならではのオモイデゴハン」を楽しむ場を提供することができた。前年度までは若林区三本塚地区との連携で取り組んできたが、平成26年度においては新たに若林区荒浜地区の市民団体とも連携することで、「おらほのオモイデゴハン」として三本塚地区との共同開催を実施することができた。 【三本塚・夏のオモイデゴハン】9/6　／三本塚集会所 【おらほのオモイデゴハン】2/19　／東北ろっけんパーク **③「記録展」の開催** 『RE：プロジェクト通信』の取材で語られた地域住民の言葉をもとに地域の姿をたどる展示。平成26年度においては、仙台市役所市民ギャラリーにおける主催展示だけでなく、仙台文学館において展示と朗読パフォーマンスを組み合わせて開催する等、「記録展」による発信の幅を広げた。 【詩の文学館・特別編（会場：仙台文学館）】〈展示〉6/18～7/6 〈朗読〉7/6　／ゲスト：武田こうじ（詩人）、渡部ギュウ（俳優） 【「RE：プロジェクト」記録展】2/3～27／仙台市役所　ギャラリーホール					②来場者：約350人 ③参加者（7月朗読のみ）：51人

ケ　育成・普及事業

主にアウトリーチの手法により、子どもや市民に芸術文化に触れる機会を広く提供した。

44	芸術家派遣事業	8月～2月	各学校・地域	0	0	
	文化庁から「仙台市震災復興のための芸術家派遣事業実行委員会」が2,121万円の事業を受託し、学校・保育所等の子どもたちに鑑賞や体験の機会を届けた。実施校（園・所）を公募し232件の申し込みから166か所で実施した。当財団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を行った。また、仙台市の負担金により、派遣芸術家を対象とした研修会「アウトリーチ・ラボ」を実施し、基本的な心構えや考え方を身に付けるとともに、活動分野を超えた交流によりプログラム作りを考えた。					学校、児童館、保育施設　166か所
45	アーティストマネジメント事業	通年	各学校・地域	1,019	1,164	その他　1,164
	子どもたちや地域住民等がアートと触れあう機会を、有償で提供するアーティスト派遣事業。提供先のニーズに合わせ、オーダーメイドでアーティストの選定・プログラム開発を行った。 ①大和町（小野・落合・吉岡・鶴巣・宮床・難波・吉田小学校）9/2・3・8・9・10・12：バリ舞踊ワークショップ ②大郷町（大郷小学校）11/10～12：韓国打楽器ワークショップ ③クリスロードクリスマスコンサート12/14・21・23					参加者： ①504人 ②411人 ③570人

コ　出版及び作品収集事業

事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与した。

46	**仙台文学館選書編集・販売等**	通年	―――	0	71	刊行物販売　71
	文学館の選書として出版し後世の人々にその作品の魅力を伝えていくことを目的とし制作・出版した選書等の販売を継続するとともに、当年度は仙台の児童文化運動の草分け的存在でもある詩人、スズキヘキの詩作品を収録する選書制作を進めた。雑誌や本に収録されているもののほかに、未発表のメモや原稿などの作品も収め、巻末には年譜と解説を収録するため、当年度は、ご遺族の元にある自筆原稿、草稿、創作メモの洗い出しと作品の選定作業を行った。					
47	**『仙台戯曲賞シリーズ』販売**	通年	―――	0	11	刊行物販売　11
	「仙台劇のまち戯曲賞」大賞受賞作品の上演機会を広げ「劇都仙台」を内外に発信することを目的に、「仙台戯曲賞シリーズ」を継続販売した。販売価格は1,000円（税別）。					
48	**市民文化事業団ブックレット 『文化芸術の社会再生力』販売**	通年	―――	1	4	刊行物販売 4
	事業団20周年事業記念連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力。」中、井上ひさし氏他による鼎談と平田オリザ氏による講演録を採録し、20年度末に出版したブックレットの継続販売を行った。					
49	**東日本大震災をめぐる文学作品収集**	通年	―――	18	0	
	24年度から行っている、東日本大震災以後に発表された、新聞歌壇・俳壇・柳壇などに掲載された震災を詠んだ作品、仙台ゆかりの作家たちによる震災関係の文章や資料を継続して収集した。					

サ　広報事業等

50	**広報事業**	通年	―――	4,928	4,928	市補助金 4,928
	文化情報誌『季刊まちりょく』の発行（年4回）を継続。当財団の活動や各種外部事業情報に加え、仙台における文化領域の動向を広く市民に広報・紹介した。また紙媒体と連動し、速報力のあるホームページを運営（アクセス件数：年77,000件）したほか、報道機関等への情報提供を随時行った。					
51	**市民文化事業団友の会運営**	通年	―――	3,041	1,523	友の会会費 1,523
	市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続した。月刊情報紙『市民ぶんかレター』による当事業団事業他の広報、主催及び協力事業へのチケット先行サービスの提供等を行った（年会費1,000円）。					会員：1,523人
52	**事業団事業全体にかかる調整、評価等**	通年	―――	3,734	0	
	事業全体の調整、新事業の企画・開発、事業評価、職員研修、臨時的人件費、チケット販売業務等の事務経費等。					

（2）コンクール運営事業

ア　仙台国際音楽コンクール事業

平成28年に開催する第6回仙台国際音楽コンクールの準備を行った。

53	**事務局運営**	通年	日立システムズホール仙台	7,275	7,275	市負担金　7,275
	コンクール事務局の運営を行った。					
54	**委員会運営**	通年	仙台市内・東京都内	1,886	1,886	市負担金　1,886
	組織委員会、運営委員会等を開催した。					
55	**コンクール事業**	通年	日立システムズホール仙台	1,046	1,084	刊行物販売　1,084
	第6回コンクール審査委員を確定した。 第6回実施要項を確定した。					
56	**広報事業**	通年	日立システムズホール仙台	8,632	8,632	市負担金 8,632
	第6回コンクール出場者募集に関する広報活動を行った。 第5回優勝者の副賞、関連事業等の広報活動を行った。					

57	**ボランティア事業**	通年	日立システムズホール仙台	1,359	1,359	市負担金 1,359
	第6回コンクールに係るボランティア活動の事務局業務を行った。 ①ボランティアリーダー会議の開催 ②会場運営サポート:副賞コンサート等の会場運営 ③広報宣伝サポート:ボランティアニュース「コンチェルト」発行、ボランティアブログ運営等 ④出場者サポート:外国語等の勉強会、交流サロンの運営内容検討等 ⑤ホームステイ受入:受入れ制度の検討、意見交換会等 ⑥ボランティアプロジェクトチーム:市民と入賞者の交流イベントの企画運営、市民参加型ボランティア研修の企画運営					
58	**第5回仙台国際音楽コンクール 優勝者副賞コンサート**	通年	東京都他	12,474	12,474	入場料等 2,211 市負担金 9,063 助成金 1,200
	第5回コンクール優勝者の副賞として、東京でリサイタルを開催した。併せて国内オーケストラの演奏会に出演する機会の提供やCDの制作及び販売を行った。また、平成27年度に実施する副賞の準備を行った。					
59	**仙台国際音楽コンクール関連事業**	通年	仙台市内各所	2,256	2,256	市負担金 2,256
	・コンクール入賞者による「学校訪問ミニ・コンサート」を開催した。 ・コンクール入賞者と学生・市民オーケストラの共演の機会を設けることにより、音楽振興と交流を図った。 ・クラシック音楽鑑賞の普及と若い音楽家の育成及びコンクールのPRを目的に、「街かどコンサートシリーズ」を開催した。					入場者数:2,572人

(3)ジュニアオーケストラ運営事業

60	**仙台ジュニアオーケストラ運営**	通年	日立システムズホール仙台	19,954	19,954	受講料・入場料等 5,050 市負担金 14,904
	・仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管した。 ・通年の練習等の指導は、仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託した。 ・演奏会を2回開催した。					団員定員:120人

(4)演劇系練習施設運営事業

61	**せんだい演劇工房10-BOX運営**	通年	演劇工房10ーBOX (能ーBOX)	26,088	26,088	利用料等 6,908 市補助金 19,180
	「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備などを弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援した。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えた。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行った。					利用者:42,655人(内訳 10-BOX:39,208人、 能-BOX:3,447人)

(5)芸術文化受託事業

(単位;千円)

62	**市制施行125周年記念コンサート**	7/7	イズミティ21	4,054	4,054	市受託料 4,054
	仙台市の市制施行記念式典の一環として仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会を開催した。ソリストには、第5回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門第2位の成田達輝氏を迎えた。					入場者:1,290人
63	**震災の記録・市民協働アーカイブ事業 (震災等緊急雇用対応事業)**	通年	メディアテーク	17,526	17,526	市受託料 17,526
	大震災を受け、復旧、復興に向かう仙台のまち、ひと、動きを、市民、専門家、スタッフが協働して記録・発信し、市民共有の財産として保存する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の運営を行った。具体的には、①震災以降の仙台地域の状況を写真や映像で記録。②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータなどを整備し保管。③収集した資料を一部選別し、ウェブサイトを通じて配信した。					雇用者 4人
64	**ミュージアムの魅力発信企画事業 (震災等緊急雇用対応事業)**	通年	メディアテーク	10,309	10,309	市受託料 10,309
	仙台・宮城ミュージアムアライアンス事業に関する記録や資料を作成するとともに、ミュージアム施設での情報収集を行い、情報サイトでの公開を行った。6年目となる平成26年度は情報誌の発行、ミュージアム施設利用啓発イベントであるSMMAミュージアムユニバース、複数館による特別企画を実施するクロスイベントや研修を行った。					雇用者 3人

2.定款第4条第2号の事業（文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信）

（単位；千円）

ア　仙台文学館普及啓発事業

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
65	**特別展・企画展の関連事業**	各展示の開催時期	仙台文学館	977	977	市補助金 576 その他 401
	特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、より深い文学の魅力を伝えた。 **①特別展「石川啄木の世界～うたの原郷をたずねて」関連：**小池館長と穂村弘（歌人）との対談、佐佐木幸綱（歌人）による講演会、地元歌人による講座、地元演劇人の啄木日記を読む展示室劇場などを実施した。 **②「こども文学館 えほんのひろば　かこさとしの世界」関連：**市内で活動するグループによるお話会や、読み聞かせワークショップ、絵手紙教室を開催した。 **③特別展「いわむらかずおの世界」関連：**関係者による講演会、いわむら作品の読み聞かせ、また文学館の敷地を使ったスケッチワークショップや自然観察会などを開催した。 **④企画展「俺達の国語ば可愛がれ−井上ひさし「方言」へのまなざし　井上ひさし資料特集展Vol.4」関連：**展示室内で「花石物語」「吉里吉里人」のリーディングイベント、読書会を実施した。					参加者： のべ1,350人
66	**ことばの祭典－ 短歌・俳句・川柳への誘い**	6/21	仙台文学館	448	448	市補助金 448
	短歌、俳句、川柳の3部門による合同吟行会。文学館の敷地内を中心に吟行し、当日発表される題に沿って作られた作品から「ことばの祭典賞」、小池光館長賞を選出した。					参加者：170人
67	**文学講座、講演会等**	通年	仙台文学館	1,988	2,195	受講料2,195
	文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座や参加型イベントなどにより、文学の振興を図る目的で当年度は下記のとおり開催した。 **①小池光短歌講座：**館長の歌人・小池光による短歌の鑑賞と実作指導の連続講座。通年で10回開催した。 **②仙台文学館ゼミナール：**近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースなどの部門を設け、各講座をそれぞれ3～5回連続で開催した。 **③仙台朗読祭、詩の文学館などリーディングイベント：**広く一般市民に参加を募り、思い思いの作品を自由に朗読する「仙台朗読祭」や、地元詩人によるポエトリーディングを開催した。					参加者： ①799人 ②2,176人 ③181人
68	**教育との連携事業**	通年	仙台文学館	297	297	市補助金　297
	県内高等学校の文芸部の活動「高文連」を支援したほか、教育センター主催の「機関研修」に加わり、図書室や国語を担当する教員への研修機会を提供した。そのほか小中高を通しての調べ学習への協力や受入を随時行った。また、小中学生に向けた常設展示の内容を学ぶためのワークシートを継続して配布した。					
69	**学芸員出前講座**	通年	―――	0	0	
	市内を中心に近隣の学校や市民センターなどに学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行った。					13件 710人
70	**文学館報の発行**	通年	―――	1,076	750	市補助金 750
	文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌（年2回）を継続して発行した。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図った。					
71	**こどもの本の部屋の運営**	通年	仙台文学館	0	0	
	絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうコーナーとして運営。文学館の展示観覧は難しい小さなこどもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替えなども行い活性化を図った。特に、当年度初めての試みとして、近隣の児童館と連携して児童館主催の読み聞かせの事業も行い、好評を得た。					
72	**文学館友の会・土井晩翠顕彰会の支援**	通年	―――	0	0	
	両会の事務局を担当。友の会は文学館との共催事業や見学会・読書会の開催、会報の発行などの事業を行った。顕彰会は晩翠わかば賞・晩翠あおば賞をはじめ、晩翠忌記念イベントなどの事業を実施した。					
73	**出版物等の販売**	通年	―――	0	119	刊行物販売 119
	小池光短歌講座の記録集を制作・販売した。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』の他、企画展関連の物品や、これまでに制作した一筆箋なども館内で継続して販売した。					

3.定款第4条第5号の事業（文化芸術等に関する生涯学習の支援）

番号	事　業　名	期　日	会　場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等・備考

（単位；千円）

ア　せんだいメディアテーク　展覧会等総合事業						
74	**対話の可能性 （1）対話のための発信事業**	通年	メディアテーク	16,700	16,700	入場料　301 市補助金 5,899 助成金 10,500
	・展覧会「記録と想起・イメージの家を歩く」：震災のアーカイヴはどのように活かされうるのかを主題としアートとの融合を図った展覧会を開催した。わすれン！に集められた映像記録を活用し、わすれン！で活動してきたアーティストや市民が展示に参加した。 **・上映会「フィクションの境目」**：「対話の可能性」そして「記録と想起」というテーマに通ずる映像作品を上映した。また、映像音響ライブラリーと連携し、シアター上映作品とライブラリー所蔵作品を関連付け、映像のパブリック・アーカイブの構築に努めた。 **・情報発信**：26年度の事業の記録と共に、仙台／東北における芸術文化の現況を広く共有するツールとして、機関誌「ミルフイユ」の第七号を発行した。					展示：5,944人 上映：148人 ミルフイユ：1,500部
75	**対話の可能性 （2）対話の場づくり協働事業**	通年	メディアテーク	3,187	3,187	市補助金　2,187 助成金 1,000
	平成23年度震災後に立ちあげた、治癒、交流、再活性のための「広場」事業を継承し、1階オープンスクエアのほか、7階スタジオも活用しながら、人が集い語ることのできる場をつくった。 **・考えるテーブル**:黒板を模した家具を活用し、誰もが参加可能な公開会議でもあり、市民の主体的な社会参加を文化面から活性化していく場を運営した。 **・スタジオ情報交流**:　年間を通じ、市民や市民グループと協働し活動の成果をスタジオラウンジで展示した。また、フリーペーパーを作成することによりメディアテークの活動について市民への周知と理解を深めるとともに、さらなる市民団体の誘致を図った。また、1年間の活動の成果として「としょかん・メディアテークフェスティバル」を開催し、活動の様子や成果を広く発信した。					考えるテーブル：1,163人 としょかんメディアテークフェスティバル：1,988人
76	**地域文化メディア活性 （1）地域文化デジタイズ**	通年	メディアテーク	1,021	1,021	市補助金 1,021
	地域の生活文化資料を市民協働によりデジタルデータとして記録・編集し、保存・公開していく事業をおこなった。市民ディレクターによって制作された映像を、ケーブルテレビやウェブサイトで発信する①「ことりTV」、みやぎ民話の会と共に行う民話の映像記録活動②「民話　声の図書室」、出処不明な古い写真や映像資料を展示公開しながら来場者に情報を募ることで撮影場所や時期を確定し、コレクションする③「どこコレ？ーおしえてください昭和のセンダイ」などを実施した。					①122人（映像24本） ②DVD配架 4本 ③展示68枚（場所確定：34枚）351枚の付箋
77	**地域メディア文化活性 （2）バリアフリーデザイン**	通年	メディアテーク	684	684	入場料　16 市補助金　568 助成金　100
	社会の中のさまざまな「バリア」に目を向け、課題を共有していくための取り組みをおこなった。目や耳の不自由な方に限らず、あらゆる人々が、メディアテークを通じて多様な活動に参加できる環境を提供すること目指し、音声解説・日本語字幕・託児つき上映、手ではなすおはなしの会、要約筆記サービスなどを実施した。					309人
78	**館長発信事業**	通年	メディアテーク	914	914	市補助金　914
	プレゼンターがそれぞれに好きな映画をアドリブで紹介しあい、誰が会場の関心を一番集めるかを競う①「シネバトル」を開催し、館長はオブザーバー、司会として参加した。また、展覧会「記録と想起」開催にあたり、②レセプションやギャラリーツアーなどの関連企画を実施し、展覧会の企画趣旨を広く発信し、わすれン！参加者、関係者、鑑賞者間の交流および互いに理解を深める機会を提供した。					①282人 ②106人
79	**施設活用推進・地域文化連携事業**	通年	メディアテーク	2,397	2,397	市補助金 2,274 刊行物等販売 123
	・施設活用推進 各種団体との協働やネットワークを通じ、地域におけるメディアテークの役割を担うとともに、来館者調査などの事業評価、次年度の企画準備等さらなる価値向上に努めた。 **・地域文化連携** ①仙台建築都市学生会議、②仙台短篇映画祭実行委員会、③Book!Book!Sendaiなど、主体的に活動する市民グループとの対話を通じて地域訴求力の高い協働事業を行った。事業展開は、スタジオ、シアター、ギャラリー、オープンスクエアや外部との連携を通じた街なかなど多岐に渡り、多くの参加者を巻き込むことができた。					①3,213人 ②2,295人 ③958人

80	**重点政策事業　わすれン！報告書出版**	通年	メディアテーク	2,758	2,758	市補助金　2,758
	平成23年度より取り組んできた、東日本大震災の記録・市民協働アーカイブ「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の活動記録を英語に翻訳・発行し、第3回国連防災世界会議に参加する海外からの関係者にも配布することで、「わすれン！」で得られた知見を広く国内外に発信した。					発行部数　5,200部
81	**重点政策事業　卒業設計日本一決定戦 国連防災会議賞**	通年	メディアテーク	550	550	市補助金 550
	国連防災会議の開催にともない、卒業設計日本一決定戦の中で「国連防災世界会議仙台開催実行委員会会長賞」を設け、公開の場で建築家などにより審査を行い、優れた作品に授与した。また、大会の内容や、運営団体である建築都市学生会議の復興支援活動などを広く紹介するため、英語に翻訳したリーフレットの作成・配布や、パネル展示などを行った。					パネル展示 4,038人

4.定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業（市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営）

番号	事　業　名	期　日	会　場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等・備考

（単位；千円）

（1）仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

82	**仙台市歴史民俗資料館 管理運営**	通年	歴史民俗資料館	61,940	61,940	市指定管理料　61,940
	歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行った。					
83	**仙台市歴史民俗資料館 常設展示**	通年	歴史民俗資料館	101	101	市指定管理料 101
	「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介した。また、被災地関連展示「若林区六郷・七郷のくらし」の中で、震災前の写真や農具を紹介した。					入館者：36,435人
ア　特別展・企画展及び関連事業						
84	**特別展「餅・モチ～ハレの食～」及び関連事業**	11/15～4/12	歴史民俗資料館	1,710	1,710	市指定管理料　1,710
	おめでたい時や暮らしの節目などハレの日の食材となることが多い食品である餅（もち）や作物である糯（もち）から作る赤飯などに注目しつつ、仙台とその周辺で伝統的に見られる多様なハレの日の食文化と、年間を通してさまざまな機会にモチ食を楽しんできた背景について紹介した。併せて餅つき体験や講座、学芸員による展示解説を行った。また、展示に合わせて図録を作成した。					観覧者：9,364人
85	**企画展「戦争と庶民のくらし4」及び関連事業**	6/28 ～11/3	歴史民俗資料館	1,428	1,428	市指定管理料 1,428
	戦争と庶民のかかわりについて、戊辰戦争から、日中戦争、アジア太平洋戦争、米軍占領期頃までに関する実物資料を通して、戦前・戦中・戦後の移り変わりを仙台地方を中心に紹介した。また会期中には軍事郵便、戦時期の雑誌などの4回に分けたテーマ展示を開催し、戦時資料の収集活動の成果を広く公開した。さらに研究者による6回の関連講座や榴岡公園周辺の歴史探訪、子ども向けには紙芝居や読み聞かせなど多岐にわたる普及活動を行った。刊行物としては、展示に合わせて図録を作成した。					観覧者：11,920人
86	**企画展「運ぶ　～背負う・担ぐ・提げる～」及び関連事業**	4/26～6/15	歴史民俗資料館	130	130	市指定管理料 130
	さまざまな運搬方法や、数多くある運搬具の中から、地域の人々が人力や畜力を使って物を運んだ道具を展示し、人々の知恵と工夫を紹介した。また、「運搬具を使って運んでみよう」などの体験のイベントや講座を行った。					観覧者：10,789人
87	**企画展「仙台絵ハガキ時間旅行」及び関連事業**	7/19～9/28	歴史民俗資料館	134	134	市指定管理料 134
	仙台七夕まつり、青葉まつり、仙台駅前、東一番丁、県庁、市役所、仙台城跡周辺等の仙台名所、松島など、絵はがきに見る今昔を訪ね、明治時代以降から現代にいたる暮らしと街並みの移り変わりを紹介した。関連行事として、「絵はがきコレクションにさわってみよう、みてみよう」を行った。					観覧者：3,018人

88	**講座・体験イベント等**	通年	歷史民俗資料館	162	162	市指定管理料 162
	①資料館サポーター養成講座（6月～3月）：「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで上・下半期の2回コースで、参加者には資料館の事業活動や資料の活用方法、民俗文化財や歷史資料の意義をなどを伝え、参加者全員がサポーターとしての活動を始めた。 **②子ども講座（8月・3月）**：おもに小学生を対象に、仙台地方の歷史や民俗をわかりやすく解説するために紙芝居の講座を開催した。 **③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」（4/26・27・29、5/3～6）**：なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」のボランティア講師による製作実演や、生活用具「石臼ひき」、こままわし、フラフープ、ホッピングなどの遊びを体験した。 **④クイズラリー（夏休み・冬休み）**：クイズやパズル形式での自主見学学習の場を設けた。 **⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」（8月、10月、2月）**：展示室、収蔵庫や資料整理室など普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催した。 **⑥ホームムービーの日（10/18）**：家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開した。					①9人 ②22人 ③9,621人 ④323人 ⑤32人 ⑥28人
89	**資料館だより発行、広報等**	通年	歷史民俗資料館	145	145	市指定管理料 145
	資料館だよりや資料館の活動チラシを作成し、学校、関係各所、入館者への配布を行い資料館を利用した社会科学習を促した。					
90	**歷史民俗資料館　資料の収集保管**	通年	歷史民俗資料館	2,200	2,200	市指定管理料 2,200
	資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進し、「資料集第13冊」をまとめ刊行した。					
91	**歷史民俗にかかる調査研究と報告**	通年	歷史民俗資料館	616	616	市指定管理料　616
	仙台地域を中心に民俗（民間伝承）、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書第33集」にまとめ、刊行した。					
92	**学校教育との連携**	通年	歷史民俗資料館	0	0	市指定管理料 0
	学校教育との連携促進を目的として実施する事業。小学校3年生社会科の学習の際、年間100校を超える学校が見学に訪れ、石臼挽きなどを体験した。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受入れ、11月には、近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れを実施した。					
93	**次年度企画展準備**	通年	歷史民俗資料館	253	253	市指定管理料 253
	翌4月から始まる企画展準備として広報用チラシの印刷や造作物作成を行った。					

（2）仙台市富沢遺跡保存館　管理運営・調査研究・普及啓発事業

94	**仙台市富沢遺跡保存館 管理運営**	通年	地底の森ミュージアム	77,145	77,145	市指定管理料 77,145
	旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理した。					
95	**仙台市富沢遺跡保存館 常設展示**	通年	地底の森ミュージアム	13,082	13,082	市指定管理料 13,082
	地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」（植生復元）の屋外展示を総合的に行った。					入館者：35,376人
ア　特別展・企画展						
96	**特別企画展「ザ・ハンター　狩猟の道具」**	7/11～9/15	地底の森ミュージアム	2,256	2,256	市指定管理料　2,256
	狩猟が生活の大きなウェイトを占めていた旧石器時代から弥生時代にかけての狩猟方法・狩猟具について紹介し、食糧獲得のための歷史的な背景にせまった。関連イベントとして、「狩猟具から読み解く人類の歷史」と題する記念講演会を開催した。さらに、市内で活動している劇団員が旧石器時代の狩人に扮して館内及び野外の「氷河期の森」に出没して入館者と触れあう「狩人出現！」や「狩人パフォーマンス」を計13回実施した（「狩人出現！」：8日、「狩人パフォーマンス！」：5日の合計13日）。					観覧者： 8,346人 （記念講演会56人）
97	**企画展「仙台の遺跡③　焼きものの一大産地」**	4/11～6/22	地底の森ミュージアム	52	52	市指定管理料 52
	近年、仙台市内の発掘調査が進み、多くの調査成果が蓄積されている中から、身近な出土品をシリーズで紹介するもので、今回は仙台市北部の台原から小田原あたりで発見されている窯跡を取り上げ、出土資料とともに紹介した。関連講座として、焼きもの産地ツアー「古代の窯跡めぐり」、堤焼づくり教室「堤焼のマイカップをつくろう」などを実施した。					観覧者：10,222人 （窯跡めぐり26人） （堤焼づくり教室20組27人）

98	**企画展「科学で読み解け！環境絵巻ー氷河期の森から縄文の森へー**	10/10～12/21	地底の森ミュージアム・縄文の森広場	114	114	市指定管理料 114
	旧石器時代と縄文時代の環境をテーマに、富沢遺跡で発見された植物の遺存体と、山田上ノ台遺跡で発見された旧石器時代の石器、縄文時代の遺物を中心として展示を行った。今回の展示は自然環境を中心に、富沢遺跡で発見された針葉樹の実物・プレパラート・種実とともに、復元された「氷河期の森」から採取された現代の種実を比べて展示し、さらに山田上ノ台遺跡で復元された「縄文の森」の植物の葉や実とともに県内で出土した縄文時代の種実を展示しながら旧石器時代と縄文時代の森の環境変化について紹介した。関連講座として、「氷河期の森から縄文の森へ～遺跡と環境の秘密～」と題した講演会と富沢遺跡から出土した樹木の樹種同定のワークショップを実施した。					観覧者：7,283人 （講演会29人、ワークショップ9人）
99	**企画展「地底の森ミュージアム2014・ミュージアムフォトコンテスト氷河期の森・縄文の森の風景2014」**	1/20～3/15	地底の森ミュージアム・縄文の森広場	18	18	市指定管理料 18
	富沢遺跡保存館で行われた平成26年度事業と、ボランティア会、友の会の活動等について紹介した。併せて「ミュージアムフォトコンテスト氷河期の森・縄文の森の風景2014」写真展を紹介した。					観覧者：3,090人
100	**講座・体験イベント・ボランティア事業等**	通年	地底の森ミュージアム	514	514	市指定管理料 514
	①考古学講座（11/22、1/17）：考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果紹介を、回公募による一般市民を対象とし2回シリーズで実施した。 **②体験学習（通年）：**体験を通して古代人の技術を学んだり、石器づくり体験教室や石器の使用体験を実施する（親子体験教室：1回、一般対象教室：1回）。また、ゴールデンウィークや特別企画展期間中の土・日・祝日、小中学校の秋休み期間中に手づくり工房体験学習として石器づくりや木の実などを使った人形づくりを実施した。 **③たのしい地底の森教室（通年）：**館学芸員が体験教室や読み聞かせ、富沢遺跡発掘の成果や「氷河期の森」の植物などの説明会を行った。ゴールデンウィークや特別企画展期間中の土・日・祝日、小中学校の秋休み期間中・12月のイベント開催期間を除く毎月2回日曜日に合計13回の教室を開催した。 **④館長講座**：一般を対象に、その都度テーマを設定し、講座や見学会を実施する。4月・7～11月・3月の第1日曜日に7回の講座を開催した。 **⑤地底の森フェスタ2014（10/26）：**屋外を会場とし自由参加の形態で実施する。石器を作る、石器を使う、火起こしをする、槍を投げるなどの体験活動を行った。ボランティア会とともに企画実施した。 **⑥利用学習事業（通年）：**小・中学校（小学校5・6年生及び中学校1年生）を対象に、主に社会科学習の一環として保存館を効果的に活用する利用学習授業を実施した。授業内容は館内外の見学と石器づくり等の体験学習。実施後、次年度の活動に活かしていくため、実践集録を作成・Web公開。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して行った。 **⑦市民文化財研究員育成（通年）：**考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による10名を対象に、1年間にわたり週1回館学芸員が支援する活動日を設け、その成果を活動報告書にまとめた。 **⑧ボランティア育成（通年）：**市民文化財研究員修了生の中の希望者5名及び公募による申込希望者7名に、展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアの育成として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行った。 **⑨地底の森ミュージアム友の会活動の支援（通年）：**博物館活動の啓発を目的とする友の会活動を、活動内容への助言や講座への講師派遣などを通して支援した。 **⑩地域や大学との連携：**地域や大学との連携強化を図りながら、地域のイベントである太白区民まつりなどに参画したり、学生ボランティアとの協働事業を行った。 **⑪博物館実務実習：**11月～12月に博物館学芸員資格取得を目指す大学生を対象に受入れ、5日間の実務実習を行った。 **⑫職場体験：**市内中学校からの要請に応じて、4月～3月に中学校の生徒を受け入れて職場体験を行った。					参加者： ①67人 ②延べ3,075人 ③延べ164人 ④延べ165人 ⑤893人 ⑥26校1,607人 ⑦－ ⑧133人 ⑨－ ⑩－ ⑪4大学9人 ⑫9校29人 ①～⑫延べ6,142人
101	**運営懇談会**	7/17、2/25	地底の森ミュージアム	0	0	市指定管理料 0
	当館の活動を広く紹介して理解と協力を得るとともに、貴重な意見やニーズを聴取し、当館の運営及び事業に活かすことを目的に、また学校や地域との連携事業を模索する場として、富沢遺跡保存館近隣の町内会・小中学校・商業施設・市民センター等の方々に出席頂き、懇談会を2回開催した。					
102	**研究報告の刊行**	通年	地底の森ミュージアム	176	176	市指定管理料 176
	富沢遺跡保存館（地底の森ミュージアム・縄文の森広場）の館職員・ボランティアなどによる調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめ、以降の博物館運営に役立てた。					
103	**ポスター・図録等の印刷・刊行**	通年	地底の森ミュージアム	1,019	1,019	市指定管理料 1,019
	4回分の企画展ポスター・チラシを作成した。特別企画展については展示図録を刊行した。					
104	**資料の収集・保管**	通年	地底の森ミュージアム	0	0	市指定管理料 0
	仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用した。					

105	**遺構の各種分析調査**	通年	地底の森ミュージアム	403	403	市指定管理料 403
	保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、各種分析調査を行った。併せて保存処理検討会を1回開催した。					
106	**次年度事業準備・その他**	通年	地底の森ミュージアム	223	223	市指定管理料 223
	平成27年度の特別企画展とその他の企画展や体験教室開催向けての資料調査及び特別企画展についての出展交渉を行った。					

(3)仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

107	**仙台市縄文の森広場　管理運営**	通年	縄文の森広場	40,274	40,274	市指定管理料 40,274
	縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を維持管理した。					利用者30,204人
108	**仙台市縄文の森広場　常設展示**	通年	縄文の森広場	15,420	15,420	市指定管理料 15,420
	施設内展示及び野外展示を適正な状態に保った。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気を伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行った。					有料入館者4,158人 無料入館者16,218人
109	**企画展「縄文人と動物のかかわり」**	通年	縄文の森広場	42	42	市指定管理料 42
	県内の遺跡の調査から明らかとなった縄文時代の人々が動物とどのように関わり暮らしてきたのか、最新の成果を含めて紹介した。3か月毎に主たる紹介遺跡を変えて以下の企画展示を行った。 **①「縄文人と動物のかかわりー大野田遺跡と土偶」**:4/18～6/29　55日間開催 **②「縄文人と動物のかかわりー名取川上・中流域のくらし」**:7/11～9/21　61日間開催 **③「縄文人と動物のかかわりーたべる・つかう」**:10/17～12/21　55日間開催 **④「縄文人と動物のかかわりー縄文人と動物」**:1/23～3/22　49日間開催					観覧者: ①8,824人 ②3,782人 ③3,167人 ④2,720人
ア　講座等						
110	**縄文まつり・縄文コンサート**	5/5、7/19・26、11/1、2/7・14・21	縄文の森広場	831	831	市指定管理料 831
	季節ごとに開催する自由参加イベント。春・秋には各種縄文体験や当館にちなんだゲームなどのイベントを主体とした「縄文まつり」、夏・冬には縄文時代や古代に関連する演奏、地元住民による演奏を主体とした「縄文コンサート」として実施した。					参加者:①春705人 ②夏633人　③秋176人　④冬447人 計1,961人
111	**普及啓発事業**	通年	縄文の森広場	2,960	2,960	市指定管理料 2,960
	①団体予約:子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験を行った。 **②随時体験**:来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供した。 **③体験講座**:「週末体験講座」をはじめとした土器づくり・石器づくりや発掘体験などの各種体験教室を開催した。 **④特別イベント**:各季節の長期休業期間にあわせて誰でも楽しめる体験イベント等を実施した。					体験者:15,140人
112	**ボランティア育成事業**	通年	縄文の森広場	166	166	市指定管理料 166
	各種体験活動について指導や展示説明を補助するボランティアスタッフを対象とした、より分かりやすい説明や体験活動の補助を行ってもらうための研修事業。当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて、「ボランティア育成講座」を年9回開催した。内1回については、富沢遺跡保存館と連携して福島県方面の合同視察研修を実施した。					育成講座修了者5人 スキルアップ者8人 両館合同研修参加者53人
113	**縄文講座**	12～2月	縄文の森広場	140	140	市指定管理料 140
	「縄文人と動物の関わり」というテーマで、縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会を、毎回公募100名を対象に以下の内容で開催した。 **①「縄文人と動物の関わりー狩猟・漁労・家畜ー」**(12/21):国立歴史民俗博物館名誉教授　西本豊弘氏 **②「縄文時代の食べ物ー鳥とクリを中心にー」**(1/25):名古屋大学総合博物館准教授　新見倫子氏 **③「狩りの文化からみた縄文人ー民族考古学の視点からー」**(2/15):東北芸術工科大学教授　田口洋美氏					受講者: ①　70人 ②　62人 ③　82人 計214人

イ 学校との連携事業						
114	**利用学習事業**	通年	縄文の森広場	1,332	1,332	市指定管理料 1,332
	小・中学校教育での当館利用推進を目的として、授業の実践校(仙台市内小・中学校対象)に交通費の補助を行い、学校側との綿密な連携のもとに、館内外の見学や各種の体験学習を行った。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行った。					38校2,456人
115	**学校教育との連携**	8･10～12月	縄文の森広場	9	9	市指定管理料 9
	学校教育との連携を促進を目的として次のような研修会や受け入れを行った。①市内小・中学校の教職員を対象に、当館の概要や体験活動事業を周知するための教職員利用研修会の実施。(8月)②学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受け入れ。(10～11月)③近隣中学校からの職場体験の生徒受け入れ。(10～12月)					①4人 ②2人 ③3校11人
ウ 地域との連携事業						
116	**運営懇談会**	通年	縄文の森広場	1	1	市指定管理料 1
	当館の活動を紹介し理解を得ると共に、意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てることを目的として、縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席していただき懇談会を開催した。また地域と連携した今後の事業について模索する場とした。					
117	**縄文の森広場子ども友の会の育成**	通年	縄文の森広場	10	10	市指定管理料 10
	実生からの育苗や植樹等を行い、縄文の森の植生を育てるなどの活動を行った。夏のコンサート時に併せて「子ども植樹まつり」を開催した。					植樹まつり参加者:28人
エ 調査研究事業						
118	**体験活動メニューの調査研究**	通年	縄文の森広場	99	99	市指定管理料 99
	各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組んだ。					
119	**復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査**	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
	公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究した。あわせて、土葺き竪穴住居の上屋構造に関する調査などを行った。					
120	**ボランティアスタッフとの共同調査研究**	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
	当館が実施している各種事業の内容深化や新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同でミニ企画展の展示模型を作成するなど、調査研究活動を実施した。					
121	**平成27年度ミニ企画展 「(仮称)縄文人の生活」資料調査**	通年	縄文の森広場	3	3	市指定管理料 3
	平成27年度の企画展の内容や、展示と連動した体験活動を検討するために資料調査を実施した。					
122	**資料の収集・保管事業**	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
	仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行った。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書などを含めた資料の収集を行った。					

(4)仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

123	**仙台文学館 管理運営**	通年	仙台文学館	171,703	171,703	市指定管理料 171,703
	文学に関する展示などを実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行った。					入館者:67,059人 収益事業を含む
124	**仙台文学館 常設展示**	通年	仙台文学館	5	5	市指定管理料 5
	明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行った。平成26年4月から9月まで放映されたテレビドラマで評判となった歌人・柳原白蓮や、仙台にゆかりの深い世界的工芸家・ブルーノ・タウトに関する特集展示を行った。					

ア　特別展・企画展

125	**特別展「石川啄木の世界～うたの原郷をたずねて」**	4/26～6/29	仙台文学館	4,130	4,130	市指定管理料 4,130
	2012年に没後100年を迎え、その作品はいまもって人々に受け継がれ新鮮な感動を呼び起こす石川啄木をテーマとした展示。石川啄木記念館、日本近代文学館などに協力を仰ぎ、その短くも濃密な生涯と、鮮烈な文学世界を貴重な自筆資料からたどり、紹介した。					観覧者:3,222人
126	**夏休み企画「こども文学館えほんのひろば～かこさとしの世界　おはなし・かがく・あそび」**	7/17～8/24	仙台文学館	2,144	2,144	市指定管理料 2,144
	夏休み恒例の企画として、絵本を自由に読める「絵本の部屋」や、市内で活動するグループによるお話会・読み聞かせワークショップ等を開催した。また、3階の企画展示室では「だるまちゃん」シリーズや「からすのパンやさん」などの作品で知られる、かこさとしの絵本の世界を展示。科学者でもある作者の「かがく」や「あそび」をテーマにした作品も紹介し、物語と想像の世界を楽しんでもらい、多くの家族づれに好評を得た。					観覧者:8,455人
127	**特別展「いわむらかずお絵本原画展」**	9/6～11/3	仙台文学館	4,845	4,845	市指定管理料4,845
	「14ひきのねずみ」のシリーズで知られる絵本作家・いわむらかずおの、自然と生き物の姿を描いた原画にこめられた、命への優しく温かなまなざしを紹介。国内のみならず海外でも翻訳され、愛読されている世界的な人気絵本の原画に親しみ、物語の世界の深さと楽しさを多くの世代の人たちに味わってもらう展示とした。親子二代にわたる観覧者も多く、好評を得た。					観覧者:7,040人
128	**企画展「大佛次郎・大池唯雄往復書簡展」**	11/22～1/25	仙台文学館	745	745	市指定管理料 745
	当館所蔵の、大佛次郎全集等に未収録かつ未公開資料である、大佛次郎が大池唯雄に宛てた書簡60点を含む、大佛・大池の往復書簡を核に据えた展示。併せて二人の作家の足跡、そして当時の時代背景などを、大佛次郎記念館の協力を仰ぎ展示・紹介した。無名の作家大池を励まし、時に厳しく批評するそれらの書簡から、二人の人間的交友の深さが伝わってくる企画展となった。また、書簡の内容を活字にした展示図録も作成。					観覧者:854人
129	**新春ロビー展「100万人の年賀状展」**	1/10～2/11	仙台文学館	139	139	市指定管理料 139
	文学館あての年賀状を広く一般から募集して展示するとともに、文学館で所蔵している文学者の年賀状（複製）などを広く展示紹介した。					観覧者:4,064人
130	**企画展「井上ひさし資料特集展vol.4」**	2/7～4/19	仙台文学館	662	662	市指定管理料 662
	2011年に寄贈された、初代館長・井上ひさしの肉筆資料から時宜にかなった作品の資料を選び展示する特集展。今回は「方言」をテーマにした作品を取り上げ、創作メモやプロットから、作品の創作過程をたどった。また川西町の遅筆堂文庫の協力を得て、作品執筆にあたって使用した書籍、参考資料なども紹介した。					観覧者:831人
131	**資料の収集・保管**	通年	仙台文学館	2,293	2,293	市指定管理料 2,293
	宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行った。また、収蔵した資料の適切な整理とコンピュータを活用した管理を行った。					
132	**次年度事業準備・その他**	通年	仙台文学館	682	682	市指定管理料 682
	平成27年春の特別展「北杜夫-どくとるマンボウの生涯」の準備を進めた。また、仙台で活躍する文学者や文学に描かれた仙台についての調査を進め、随時紹介した。					

5.定款第4条第6号の事業（文化施設及び生涯学習施設の管理運営）

番号	事　業　名	期　日	会　場	支出	収入	収入備考
	事業内容					備考

（単位；千円）

（1）仙台市青年文化センター管理運営事業

133	**仙台市青年文化センター管理運営**	通年	日立システムズホール仙台	335,448	335,448	市指定管理料 335,448
	平成24年度から引き続き5年間の指定管理を受け、その3年目に当たる26年度は次のとおり施設運営を行った。 (1)利用者が安心して利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務を強化した。 (2)利用者と積極的なコミュニケーションを図り、利用に関する的確なアドバイスを行い利用者の増加を目指した。 (3)施設利用に関すること及び芸術文化に関する情報を広く提供するなど広報を強化した。 (4)市民の文化活動の拠点施設であることをさらに認識し、施設の利用促進につながる施設紹介事業を行った。 　①ガス局との共催による料理教室　②ホール見学会 (5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置を継続して行った。 (6)震災を教訓に、より実践的に対処できる防災体制を構築し、環境に配慮した各種施策に努めた。 (7)大規模改修に向けての設計や設備更新作業のサポートを、施設設置者とともに行った。 (8)当財団自主事業のチケットを販売、PR等を積極的に行った。 (9)利用者の要望に応え、館内8か所に温水洗浄便座を設置した。					年間利用者： 336,193人 収益事業を含む

（2）仙台市泉文化創造センター管理運営事業

134	**仙台市泉文化創造センター管理運営**	通年	イズミティ21	121,821	120,744	市指定管理料 120,744
	「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として平成22年度から5年間の指定管理を受け、5年目に当たる26年度は次のとおり施設運営を行った。 (1)市民の芸術文化の振興と育成の場を提供し、自主的な文化活動の拠点となるよう、市民が利用しやすい開かれた施設を目指、施設利用や公演実施に関する利用者からの相談に応じ、的確な情報や助言を提供するなど、利用者への支援を充実させた。 (2)適切で丁寧な接客業務を行うと共に、施設貸出しに際してはニーズに応じて可能な範囲で弾力的に対応し、更にアンケートや「お客様の声」などを参考に、利用者の立場に立った施設運営を行なった。 (3)施設の安全維持管理に努め、各種災害に備えた防災体制を整備し、バリアフリーへの取組みを引き続き推進した。 (4)イズミティ21を活性化させる事業として、プレイガイド事業、ロビーイベント、ホール見学会、ピアノ弾き込み事業、市民ギャラリー展示、宝塚歌劇仙台公演でのロビーコンサート、寄席等を行った。 (5)当財団自主事業のチケットを販売、PR等を積極的に行った。 なお、同グループで平成27年度から5年間の次期指定管理者の指定に応募し、厳しい競争の末、これまでの実績が高く評価され、指定を受けることができた。					収益事業を含む 年間利用者： 286,051人

（3）せんだいメディアテーク管理運営事業

135	**せんだいメディアテーク 管理運営**	通年	メディアテーク	553,860	553,860	市指定管理料 553,860
	平成24年度から引き続き5年間の指定管理を受け、その3年目に当たる26年度は次のとおり施設運営を行った。 (1)人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化などを中心とする芸術文化活動の拠点として、市民文化のシンボルでもある定禅寺通りに面した立地と、世界に誇る建築デザインという施設の特性を最大限に発揮しながら、施設・設備の適切な管理運営に努めた。特に平成26年度は27年3月に開催された国連防災世界会議の展示会場の一つとして、様々な行事が予定されたことから、関係部署と連携を密にして設備等の点検及び修繕に力を入れ、開催に向けて対応を行った。 (2)メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行った。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行ったほか、展示や上映のための施設の提供を行った。 (3)震災後着手した「考えるテーブル」の事業を引き続き発展させるとともに、市民参加型事業を積極的に進めた。 (4)博物館施設など地域の知的資源を活用するため、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担った。さらに、学校との連携を図りながら、次世代の育成にも取り組んだ。					年間利用者：447,536人 収益事業を含む
136	**せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業**	通年	メディアテーク	8,121	8,121	市指定管理料 8121
	映像音響ライブラリー、視聴覚教材ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリーにおける映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供した。 また、せんだいメディアテークの事業、および「3月11日をわすれないためにセンター」を拠点として集められた震災関連の映像などを含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し、映像音響ライブラリーと視聴覚教材ライブラリーを通じて提供した。					配架本数449本 smtコレクション51タイトル